



5
4898
1



門 5
號 4838
卷 1



序

世仁稱佛在活法者多志其中
負德翁乃御傘最可信者也然
砥裳彼御傘波波遐上兮下佛佛權輿ハシ乃
者奈禮波言至天些志故仁增補

一錢亭

早稻田大學圖書館
第27.6.30
藏書



之勢留活法乃書々繼出天行世

其記中或有季節乃混雜勢留

者或不詳出所天俳子不

得其意採不堪為式也正至謂

蕉門乃式天波取捨尤多御傘

砥店裳其氣味仁波難用爾則流布

活法乃書仁所遍載年中行事

國々乃神事天象華鳥艸木菜

菓四時乃景物也擇ミラヒ閱之固難

解事不少且至世諉平話乃語

天波粗不通風土乃俗談中涉事

物乃方言喻謂有史漢乃才砥裳

恐_レ不_レ辨_レ別_レ者多_レ志_レ予_レ年_レ來_レ為_レ初_レ
 學_レ門_レ人_レ有_レ選_レ集_レ其_レ不_レ解_レ天_レ書_レ記_レ
 反_レ古_レ乃_レ端_レ置_レ者_レ今_レ錄_レ左_レ此_レ書_レ題_レ
 篋_{ワケ}纒_{カセ}輪_サ者_ト波_ト謂_レ縹_{クリ}分_{ワカ}其_ト素_ス絲_シ據_ラ
 女_ト工_ト乃_ト具_ト天_ト為_レ名_ト焉_ラ而_レ已_ト

于時寶曆第二壬申仲春

方竟老千梅誌



ワク上



篋纒輪 卷之一 方竟千梅選

活法之書四季詞寄内名目而已
出ラ難辨物或ハ註書有ラ年記等
不詳混ノ不分明物悉記焉

正月

一 四方拜 元日寅ノ時天子自^{ミタマ}天地四方拜山陵ノ寶

祚ヲ祈玉^ニ當年ノ本星ヲ唱^ヘラ年災ヲ被玉^フ其
起^リ公事根源^ニ人王三十六代皇極帝雨ノ御祈
和州南^ノ河上^ニシテ天地四方ヲ拜シ玉^ヒケレハ
雨五日^ニテ降ケルトナシ是ナトシヤ四方拜ノ始

申へキナラント云々

一 元日節會 群臣賜酒者宴會アルヲイツニ不

限節會ト云シサル中ニ元日ノ節會ハコトニ嚴重シ

諸司ノ奏氷ノ様腹赤ノ御贄七曜ノ御曆ト云コトアリ

○ 氷ノ様ト云ハ去冬所ニノ氷室ニ藏タル氷ノ至テ厚

コトヲ奏スルシ氷ノ厚キハ豐年ノ祥瑞ナレバシ

○ 腹赤ト云ハ鱒ノ魚シ人王十二代景行天皇熊籠衣ヲ

追討ノ夕々周防豐前日向ニ至リ玉ヲ時肥後ノ国

宇エ濱ヨリ鱒ノ魚ヲ献ス是ヨリ毎年元日ノ

節會ニ献之則腹赤ノ御贄ト云是シ

○ 七曜ノ御曆トハ日月火水木金土此七曜ヲ註シ

曆シ中勢省ヨリ献之此三ツノ事ヲ奏シ上ルヲ
諸司ノ奏ト云シ以上公事根源ニ出

一 国栖奏国栖笛 是元日ノ節會ニ和州吉野ノ奥国

栖ト云所ノ者毎年春内シテ歌ヲ諷ヒ笛ヲ吹テ

如吉例ノ年始ニ奏リタリト云コトヲ奏シ上ルシ是

應神天皇十九年ニ始ルト云々

一 齒固 元日典藥ノ頭御藥ヲ供ス時ニ先御厨子所ノ

御齒固ヲ供スト云々齒ハ人ノ齡ナレハ齡ヲ固ニ義シ

トソ一ノ臺ニ餅大根橘ヲ盛リ献之此餅ハ近江ノ

火切リノ餅ヲ可用ト源氏初音ノ卷ノ註ニミエタリ

一御藥トハ 一献ニ屠蘇ニ献ニ神明白散ニ三献ニ度
嶂散しニケ日共ニ供之ヲ而メ三日ハ右ノ三種ニ
又メウヤツヲ献ス是千瘡膏ト云膏藥シカウ
ヤクト云名目ヲ忌テメウヤクト稱ストノ御額及
御耳ノ裏左リノ御手ノ掌ニ塗之ヲ玉フト云ニ

一牛德神 其年ノ元方ヲ主^{ツク}神シ俗家元方ニ新^タニ
構^レ棚^ヲ備^ユ餐^シ夜ハ燈明^シ元日ニ祭^テ之^ヲ卯ノ日^ニ至^ラ
其棚^ヲ止^ム此神陰陽家ノ説ハ頗利才女^シ則
牛頭天王ノ妃^シト云、頗利才女ノ社ハ高辻通室
町ノ西^ニアリ神書ニ是稻田姫^ヲ祭^ル神宮^ニト云リ
浴東祇園牛頭天王ハ素盞鳥ノ尊^ニシテ稻田姫ハ

則其妃^シ然^レハ陰陽家ノ説ト神書ノ説其云フ
所ハ異^ニシテ意ハ一致^シ

一毘沙門ノ功德經 昔元曉ニ陰陽師都下家^ニノ門ニ
高声ニ其功德^ヲ唱^フ大畧佛說毘沙門天王經ノ
金銀無盡福德壽命無量ノ説^ヲ述^ル似^テ後^ハ
信語ニ當時目出度^{コト}ヲ集^メ云^フ立^レシ一説^ニ先
禁裏日華門ノ外ニ來^テ唱^テ之^ヲ後都下^ヲアリキ
ト云、今ハ凡^テ絶^テナシ

一若惠美酒 是江戸ニテ福神雙六^ヲ賣^{コト}ノ元日
夷ノ像^ヲ盪^ルヲ京師ノ家^ニニ投^テ初尾錢^ヲ

取^レ近^キ頃^ニテ有^レカ近年ハ絶^テナシ

一懸想^{ケサラフ}文賣 是^モ陰陽師赤^キ袴^ニ立^烏帽子^{シテ}

女嫁^スヘキコトナント^{シテ}祝^シ記^{シテ}元日寅^ノ時^{ヨリ}
京師ノ町^ニツ賣^{アリ}キ^シ是^等ト^今ハ皆^絶ク

一船魂^祭 元日船^ニ松飾^{シテ}其神^ヲ祭^ルし 船^ノ神

本朝^ニテハ猿田彦^ノ命^則船玉^ノ命^ト稱^ス歌^ニ幸^キ
玉^トヨ^ミ手向^ノ神^ト云^セ是^シナラ^フ神祇^ノ則^ニ委^記

一淑氣 早春^ニタツ^一氣^シ千門^淑氣^新シ^ト詩

ニモ作^レリ

一押鮎 貫^之土佐^{日記}ニモ元日^ノ則^ニミユタリ昔^{元日}

コレ^ヲ祝^食セ^シニコソ^年魚^ノ名^ヲル^モ此^故ナ^{ラン}

一謠初 當世^效上^ニ二日^{三日}ニ始^之ツ依^テ元日^ノコト^ニ

アラス^ト思^{ヘリ}藏^用湯殿^始子^始船^乘初^着

始^商始^謠初^等皆^{元日}ヨリ始^之コト^シ

一ヒメハシメ 梁塵^{秘抄}ニ正月^始テ於^{馬場}殿^ニ馬^ヲ

騎^ル飛^馬始^ト云^ト云^ハ

梓弓^{馬場}ノ^アシタ^ノヒメ^始是^ヲヤメ^ノ名^ニ違^フラン

一水カケ^ノ祝 去^ル冬^新ニ妻^ヲムカ^ヘル男^ニ水^ヲ祝^フラ

フシ 五

友達相催モリス酒肴ヲ携其家ニ至リテ水ヲ祝ヒ浴
セシ是モ元日ヨリノ事シナシ戀ノ部ニ委記ス

一ツサガリ 三ケ日ノ雨ヲ云 御降サガリシ

一イ子ワム 寢ルシ イ子アヅル起ルシ 三ケ日ノ寐起ル云

一若水 立春シ近來歳具ニ用レ之ツ甚ク不吟味シ俳
學ニ深切ナラヌ故シ公事根源ニ立春朝主水司献之ト云

一初子ノ日 初春ノ初子ノケフノ玉簾ナント云 歌アルニ
ツキ是モ歳具ノ部ナト心得タル輩アリ不宣此

歌ノコトハ十一月豊ノ明リノ下ニ委記ス 初子ハ正月上
子ノ日シ凡テ子ノ日スト云フハ原野ニ遊ヒテ若菜ヲ
摘ミ小松ヲ曳シ云シ是正月ニモ不限 圓融院ノ紫野ノ
御子ノ日ハ寛和元年二月十三日 源氏若菜ノ卷ノ
子ノ日ハ正月廿三日シ然レハ初子ノ日只正月ノ季シ

一初寅ニ 番卸フコト 正月上ノ寅ノ日浴ノ貴賤鞍馬寺ニ
詣ルコトシ是ノ日鞍馬ノ山人ヒウキ燧石ヲ賣ルニ参詣ノ
道端谷ヲ隔テタル高キ岡ニ小屋ヲ造リ居リテ其小屋
ヨリコナタノ阜ヒキキ岸エ網ヲ引ハエ其網ニ小番ヲ付テ
待参詣ノ諸人錢ヲ番ニ入レハ則番ヲ引上ケ錢ヲ
取テ其代リホトノ燧石ヲ入レ番シフロス是ヲ鞍馬

番卸ト云フ甚タ真アルコトシ

一 卯杖

上ノ卯ノ日大學寮ヨリ獻之ヲ御杖ト称ス
精魅ヲ追御杖シ持統天皇三年ニ始ルトソ

一 節振舞

正月親族相互ニ酒肴ヲ設テ會合スル
ヲ節ト云是禁裏ノ節會ニ倣テ云リ常ノ會
合ニハ此言ヲ用ヒサレト七年始テ祝シテ下民モ
其言風ヲ唱ルシ

一 愛宕寺天狗宴

二日洛東六波羅ノ愛宕寺一名
珍皇寺ト云清水坂ノ弦刺共此寺ニ會合シ太鼓ヲ

打酒宴ス是當年祇園會ノコトヲ定ルル俗是
シ天狗宴ト云清水坂ノ弦刺ハ大神人ト云テ祇園
ノ社ノ使令ニテ神輿舁ルツルナソト云訓ハ弦召
ノ訛言ニトソ刺弦ヲ作咎ヲ敗之ヲ賤業者者

一 裏白連歌

三日北野ノ社司松梅院ニテ每正月真
行ノ連歌シ中古執筆誤テ初面ノ次ヲ白紙ヲ
置テ書リ其誤流例ト成テ今ニ其片面ヲ除キ
書ス依テ裏白ノ連歌ト云

一 叙位

五月諸臣ニ爵位ヲ賜コトシ三十四代推古
天皇ノ時十二階ノ冠位ヲ行ハ今ノ爵位ニ替レル

品ナレト是其始トツ

一千壽万歳 エヒスハシ 春駒 猿引 鳥追等活法ノ

書ニ三ケ日ノ間ノ取ニ記セリサレトモ是ニ差別アリ
先万歳鳥追ハ今世ノ風俗トシテ三ケ日ノ内ヨリモ
来レハ其分ナルヘシ年中行事ニ曰正月五日禁庭木造
始^ル是日千壽万歳并ニ猿舞等東ノ御庭来
ト云ニ採^ル用^ヒ之^ラ猿引モ爰ニ出セリト三エタリ凡ソ
猿引ト云モノ常アルモノナレハ右禁庭ニ参リテ祝
舞セル向ナレハ正月ノ季只其名目ハカリハ無季ニ
エヒスハシハ傀儡師ニテ舞^{ハシ}或^ハテゾツト訓ス是
又三ケ日ニ極^リタルモノニアラス春駒モ只正月ノ

季ニ白馬ノ節會ノ下ニ記

一白馬ノ節會 御弓奏 是ツアツムノ節會御ツメラシ

奏ト讀習ヒトソ馬ハ陽獸ニシテ天ニ白龍アリ地ニ
白馬アリト云本文アルハ正月七日白馬ヲ見年中
邪氣ヲ除クトテ今日白馬敷覽シ仁明天皇永和
元年正月七日白馬敷覽ノコト古記ニ三エタリ
青キハ春ノ色ニシテ至テ白キモノハ青キニ依テアツム
ト称ス又子ヲツラシト云ルハ天竺ノ貝多羅葉長
七尺五寸アリ摸^カ之^ラ子長モ七尺五寸ニ依テタラシ
ト申ニヤト云ニ以上公事根源ニ出

為家卿

嵯峨ノ山雲井ノ春ニヒキ初テタエスモ今日ハ渡ルアツム

信春駒ト云テ馬ノ形ヲ頭ニ載シ舞フモノアリ是此
白馬ヲミルコトヲ摸セル餘風ナラシト云ミサセ凡レ

一人日 七日ヲ人日ト云フハ元日ヨリ六日迄ツ六畜田ノ目ト
シ七日ヲ人ノ日トス六畜ヲ先ニシテ人ヲ後ニセルハ賤
モノハ易生貴キモノハ難育トシテ人ヲ重シタ
意シトツ 元日雞 二日犬 三日羊 四日猪 五日牛
六日馬 七日ヲ人日トス以上荆楚歲時記ニ出

一供若菜^ス 上ノ子日内藏ノ寮并内膳司ヨリ奉^レ之^ツ寛
平年中ニ始^ルトソ或ハ十二種ノ若菜ヲ献ストモ有リ
サレトモソレハ當世論スルニ用ナシ公事根源ニ延喜十

一年正月七日七種ノ若菜ヲ供スト云モノナツナゴヘ
苜^アヲナゴキヤウス、シロ^ハノ座ト記セリ此七種ノ菜
羨^シヲ食スレハ万病ナシ又邪氣ヲ除^ク術侍^トニエ
タリト云ミ右七種ノ菜 苜^{根白} 薺^{三味線} 其子^{似タリ}
鼠麴^{ハコヤウ} 蘿蔔^{ハコヤウ} 佛^ノ座^{一名田平子} 松^{ハコヤウ}
公事根源ニ載ス取正説トスヘシ今京師ニ用^ルモ則是^レ歌
苜^{ナツ}ナゴキヤウハコヘラノ座ス、ナス、シロ是ソ七種
然^シゴキヤウ田平子ノ座ナト唱エテ田平子トハノ座ト別
シトスル説有尤三才圖會大和本州等ニモ別物トシテ
其圖ヲ出セリサレトモ其ハノ座ト別ツナル田平子ハ七種
菜ニアラス其故ハ公事根源及和爾雜等ノ七種ニ

田平子ト云物ヲ不出サツ以テ可知サレ七中ノ菜ニ用
田平子ハ仏ノ座ト同物ナルコト明シ

一エウツム 甘菜 エゴトモ 白菘 カミナキ 似テ蔓生ノ小科シ生
水辺ニ紫赤色ノ花アリ 藻塩科ニエゴハ芥ノ異名
トモエリ又フソワカシト云ハ則ツ若菜ヲハヤスツ云
福涌ノ祝語ナルヘシ

一蘇蒿 ソハキツム ヨメカハギシ畿内ノ甘言何ノウヘニモスベテ
御ノ字ヲ冠ラシム依テソレニ混シテ江東ニテ只
ハゲツムト云リ歌ニソハキト讀リ
今日ハ待テ雪間ノソハキ摘セテ野辺ノ若菜數ヤ増エ

是ツヨメナト云ハ諸国通号シ秋淡紫ノ花ヲ用ク
花葉トモニ野菊ニ似タリ依テ野菊ニヨメカハキノ
訓ツ付タルアリ甚タ誤シ別物シ

一菜摘川ノ神事 七日 和州吉野シ

一箕面富突 ミノラトミツキ 八日 朝寅刻 摂州豊嶋郡箕面山瀧
安寺辨才天ノ富シ諸人此富ヲ突テ天福ヲ
祈ル其應響ノコトト云ク

一真言院ノ御修法 八日 於禁裏ニ修セラルル国家安令ノ
御祈禱シ年替ニ胎藏金剛ノ修法アリ永和

元年空海始行^ル之^リ時宮中^ニ真言院ヲ申立
ラ^レ依テ此名アリト云^ニ

一御齋會 八日 大極殿ニテ最勝王經ヲ講セシメ玉フ
是又朝家護持国民豐饒ノ御祈禱^ニ天平元年始

一廿叙位 八日 宮女ノ位階ヲ進メラ^レ日^シ隔年^ニ行^ル之^リ
此日天子出御ノ御傍^ニ東童^ト云^{アリ}内侍
司ノ被官^シコレニ必^ニ三ツ子ヲ選^ビ用^イ玉フト云^ニ大リシ
テ^ン小^リシ^テ切^レ申^文ナ^ト云^事アリ有職ノ秘決^ニ

一女王錄賜 八日 皇女皇孫^ニ内親王^ヲ宣下^ナキ^シガ玉^ト

云四世以下ハ命婦宮人ニ准^{スト}云^ニ 只王錄^ト讀^ム

一大元帥ノ法 八日ヨリ七ケ日ノ間 毎正月 治部省^ニテ行^ル之^リ
是天子ノ御衣ヲ加持サセシメラ^ル 秘法^シ昔小栗^ヲ
栖^スノ常曉律師入唐^シテ此法ヲ傳來^ル 承和五年
ノコト^シ其後^ニ齊衡ノ頃 天下大旱^セシ^ニ神泉苑
ニ^レテ此法ヲ修^セラ^ルニ白龍忽現^シテ雨ヲ下^ス甚^ク
秘法^シト云^ニ是^レ帥ノ字^ヲ不讀 大元ノ法^ト讀^ム

一外記ノ政始 外記ノ官ハ恒例 臨時ノ政ヲ執^リ行^フ
官^シ依^テ先當年ノ政ヲ行^ヒ始^ルシ其日ハ不定
大方ハ九月^シト云^ニ

一夷祭 十日 此社括別安倍野ノ北ニ在祭神蛭兒
大神宮天照太神素盞盞鳥尊三座シ每正月十日
祭之ヲ 貴賤成群ヲ 倍十日夷ト云俳諧十日
夷トシテ正月ノ季勿論シ

一魚上氷 立春ノ候シ 瀬祭魚ヲ 雨水ノ候 正月申
トモニ 禮記月令ニ出

一男踏歌 アラハレリト云 十五日十四日トス 夜分シ 源氏物語ニモ
取ミ踏歌ノコトヲ載タリ京家ノ遊人ノ声ヨク物詠
ヲ召ツドヘテ年始ノ祝言ヲ文ニ作り詠ニ舞ハシメラレ
コトシ 天武持統ノ頃ヨリ始ルトミエタリ是ヲアラハレリ

ト云ハ踏歌ノ歌曲ノ納メニ 万年アラレト云 祝言ヲ以必
詠イ納ム依テアラレ走リノ名アリトソ今世目出度キ
コトノ大尾ニ 万歳樂ヲ詠フト同意シ カサレノ綿
云ハ此夜踏歌ノ者ニ絹白布綿ナントシ賜フ又
綿ヲ以テ花ヲ造リ冠ノ額ニツク是ツカサレノ綿ト
云シ 皆往古ノコトニシテ今ハナシ今ノ世ノ万歳ト云
モノ此遺風ナラト一茶禪問ノ世談問答ニ書記シ玉ヘリ

一綱曳 十五日 大ナル經一條ニ 大勢取付キ 雙方エ引アヒ
勝負ス 京童ノ正月遊シ

一小豆粥イハフ 十五日 宇多ノ天皇寬平年中始献之ト云ニ

此御粥モ七種ノト九条右丞相ノ御記ニミエタリ
白穀大豆小豆粟栗柿 豇豆ササゲトソノ紅調粥ト
云モ此七種ノ御粥ヲ云ナルヘシ

一平岡ノ御粥 同十五日 河内国平岡ノ神前ニテ赤豆粥ヲ煮
テ其年ノ農事ノ吉凶ヲ占フコトシ平岡ノ神社 天兒
屋根ノ尊 鷓鴣羽尊ウサノハ不合尊 大国主尊 栲幡千
姫ノ命以上四座ト云ニ

一粥ノ木 粥杖同物シ清少納言ハカユノ木ト書 大貳ノ三
位ハ粥杖ト書リ枕巾紙ニ曰十五日粥ノ木引カリシ
伺ウカガフシ打レシト用意シテ後ノツ心ツカヒシタル氣色モシ

カシト書リ大貳カ狭衣ニハ若キ人ニニ後カシコニ群
居ツ、シカシケナル粥杖引カリシツ、カタミニ伺ヒ又
打レシトシタルスミヒ思ハクトモ、各ツカシトス、此杖ニテ
打レタル女ハ男子ヲ孕ムト云コト往古ヨリ云傳フコト
トミエタリ則狭衣ニ曰大將殿ミタメヒ九ノヲ集リテ
ウテサラバソ 誰モ子ハ設ケンニコト驗アルコトナラハ
イトフモ念シテ有ラシナト宜ノクニハ皆打笑ヒタリト云ニ

一御薪ミカニキ 昔百官悉薪カニキシ宮内省ニ献シタルコト延喜式ニ
載タリ天武天皇ノ御時ヨリ奉之ヲ正月十五日
按ニ東土ノ俗薪カニキシマキト云リ薪カニキノ上略カ又粗割アラク
タルヲタキト云イ小細ナルヲツマキト云然レハツマキノ上

略ナランカ何ニ畧語トミエタリ

一三毬打 十五日令禁庭ニ其故有テ十九日行ル加茂
神前ノ三毬打其外畿内皆十五日シ左義長ノ由
来説マアトモ畢竟焼竹ヲ陰邪ノ氣ヲ祓フナリ
又爆竹ト云モ爆ハヒバント訓シテ焼竹ヲ火ノ音シ
其響シ以テ疫氣ヲ祓退ルシ唐土ニハ時ニニ爆
竹スト荆楚歳時記等ニミエタリ

一獅子頭ノ神事 十四日ヨリ十七日ニ至伊勢外宮ノ御神事ニ

一厄神参リ 十五日ヨリ十九日ニ至城刈ハ幡ノ厄神ニ都

鄙ノ男女群参ス此日ヲ女節分ト云毎十二月晦日
京師ノ信吉田ノ厄神ニ参リテ厄ヲ祓フ大晦日
カヒスレケレハ婦女ハ不詣依テ此ハ幡ノ厄神詣
大晦日ニ易趣意ニテ女節分ト云

一賭子 十八日天子ヲ場殿ニ御幸アツテ子ヲシ敷覽ナリ
左右ノ近衛左右ノ兵衛四府ノ舍人射之ヲ大將
射手ヲ奏セラル勝ノ方ハ舞樂ヲ奏ス負ノ方四討
酒ヲ賜フ甚タ真ニ事ハテ、後射手ノ捨人数ニ大
將饗シタニフ是ヲ賭子ノカヘリ饗ト云カヘリ
饗シ玉ハ又大將ハ當時ノ参内ヲハ、カリ玉フト
云ニ

一吉田ノ清祓 十九日ノ夜神樂園ノ社ニテ祓アリ京師ノ
貴賤群参ス社ノ西ニ火振り坂ト云アリ此夜参
詣ノ諸人炬ヲ振立ルニ依テ此名アリトソ

一御忌 十九日ヨリ廿五日ニ至ル法然上人ノ御忌シ淨土一派ノ
諸本寺皆従行^ス之^ラ中ニモ智恩院ノ御忌甚^ク大會シ

一水入菜 菜ノ字ハ菜^{サイ}蔬^ソトツキテヤサイノ搃名シ正字
菘^ナシ種甚多シ夕カナウキナ白ナ赤ナ
冬ナ鶯ナ水菜等シ京師ニ作ルモノ畑ノ
畦間エ水ヲ湛エテ作ル故ニ水入菜ト云トソ洛下
東寺辺ヨリ專出之ヲ冬ノ景物シ

一鮮^{セン} 或書ニヒコエト云ハ州ニアルモノニアラス木ノ切
株ヨリ細キ芽ヲ生スラヒコエト云ト記セリ此説
宜^キナラント思ヘリニ新古今曾根ノ好忠ノ歌ニ
アラ小田ノ去年ノ古根ノス蓬今ハ春辺トヒコハエニケリ
是蓬ノヒコハエシ然レハ州木トモニ鮮ノ名目アリ
短オニレテ物ヲ正レ論スミレキコトシ

一菠薐菜^{レンサウ} 本州及其外ノ菜蔬史皆此三字ヲ用然レニ活
法ノ書ニ菠薐ノ二字ヲハウレシト讀セタルアリ不^レ宜トソ
菜ト薐ト字義不通薐ノ字ヲ略シタルモ不可シト云

一野大根 相州ノ波多野大根 江戸ノ倍ハタナト稱ス搃別

天滿ノ細根大根是也 早春專出之ヲ 元ト野生ノ物也

一百千鳥 又呼子鳥等 活法ノ書ニ出シテ只春ノモノト心得俳諧ニセヨト云 説ハ他門ノ沙汰也 蕉門ニ傳受ナキモノ句ニスル事不赦之ヲ 百千鳥呼子鳥 稻負鳥ハ古今集ノ秘史也 傳受モセサルコト句ニ作リテ如何ソ心通スヘキ何ノ詮ナレ無用ノヨシ 古翁句合ノ判ニ禁メラレタリ 蕉門ノ俳士可得ニ其意ヲ

一ハコ鳥 古書ニ呼子鳥ノコトヲ辨シタル中ニ山中ニ鳥アリ其声人ヲ呼ガ如クハヤコノト鳴ケリハヤコハ早来也

是則呼小鳥也ト云リ万葉ノ抄ニモ此趣ヲ記セリ歌ニ宮ノ縁語ニヨリテフタ村山或ハフタカミ山等ニ讀リニ村ノ山ノ端シラム東雲ニ明クスト告ルハコ鳥ノ声春サレ友トハセルハコ鳥ノ二上山ニ朝ナクナク然ルニ活法ノ書ニ果鳥ト書ケル心不解 按ルニ早少ノ二字書損レチニマリテ早ノ字ト成名 板ノ誤ナラシカ

一木地爐縁ロフチ 茶人用爐縁ニ爐用ヨリ冬中塗縁ヲ用ユ春ニ至テ木地ノ縁ニ仕替ル也 茶人曰春ハ陽氣強ク爐ノ内ヨリ白灰ヲ吹上ル故ニ塗縁ニカ、リテ見苦ニ依テ木地ノ縁ヲ用ユ是茶道ノ故實也 他説モ有ト此説宜レト云ニ

一佐保媛 州木ノ發生凡テ春氣ヲ主^{ツキル}神^ル或書^ニ年
德神ノ一名ト云リ尤サモアルヘケレトモ俳諧ニハ其意
別シ年徳ハ神祇^シ佐保媛ハ神祇^ニモアラス

一于鱖 春季トスル此^{ホレウ}鱖^ウ早春京師ニ多ク来リ畿内
江東ノ販^{ヒヤリ}市^ニヲ以テシ他州ニテハ季トスヘカラス
畿内ニ用^レ之^ヲ句ナラハ春季トスヘシ

一山椒皮 是又若別丹別ノ辺ヨリ春京師ニ多ク出ス
故ニ京俗音物等ニシテ賞^之ヲ依テ季トセリ其
名目ハカリハ無季ト心得ヘシ

一霞ノ洞トハ院ノ御所仙洞ノ御事^シ不得^ニ其意^ヲ
謾ニ句ニスヘカラストソ

東寺ノ御所前ニ有リ霞ノ洞ト云フ
東寺ノ御所前ニ有リ霞ノ洞ト云フ
東寺ノ御所前ニ有リ霞ノ洞ト云フ
東寺ノ御所前ニ有リ霞ノ洞ト云フ
東寺ノ御所前ニ有リ霞ノ洞ト云フ
東寺ノ御所前ニ有リ霞ノ洞ト云フ
東寺ノ御所前ニ有リ霞ノ洞ト云フ
東寺ノ御所前ニ有リ霞ノ洞ト云フ
東寺ノ御所前ニ有リ霞ノ洞ト云フ
東寺ノ御所前ニ有リ霞ノ洞ト云フ

二月

一初午 是日稻荷ヲ祭ルハ諸国年中行事ニ曰人皇
四十三代元明天皇ノ御宇二月十一日上下午ノ日
此倉稻魂ノ神浴東稻荷山ニ影向レ玉ヲ依テ令
世ニ至リ此日ヲ祭テ稻荷ニ詣ストソ本朝神社
考ニハ此神社ノ起リイツノ頃ト云コト不詳ニセ和銅
年中始テ現ニ伊奈利山ニトモ又相傳フ空海大師
東寺建立ノ時門前ニテニテハル檐稻逢翁ニ即祭テ之
東寺ノ為ニ鎮守ト云ニ

一東福寺ノセニホツ懺法 上ノ午日 觀音三十三身ノ像ヲカケテ

法華センホウヲ行フ

一水間寺ノ初午 泉列人皇四十五代聖武天皇二月初
午ノ夜冥夢ニヨツテ行基ニ命シテ和泉国ノ山中
救世大士ノ冥像ヲ得玉ヒ此寺ヲ開基シ玉ヲ依テ
今世ニ至リ初午ノ日ヲ縁日トス其餘ノ初午ニ觀
音詣オラフ倣ナラフ之ト云ニ

一釋奠 上ノ丁日 大學寮ニテ行ル之ヲ孔子及十哲ノ影ヲ
祀ル上卿ハ巾納言モンビヤウハカセ文章博士 孝經禮記毛詩
尚書論語周易左傳 年廻リニ講レ之ヲ文武
天皇大宝二年ヨリ始ル釋奠ト云ル字義ハ禮記ニ

釋菜ヲ奠幣ヲテ先師ヲ禮スルト云々

一春日祭 上ノ申日 和列春日大宮ノ祭ニ勅使アリ

清和天皇貞觀元年ニ始ル

一園韓神祭 上ノ丑日 帝都守護ノ神ニ醒井通高

辻ニ社アリ京俗本ト荒神ト云上古大内裏ノ時

宮内省ニ在トソ祭ル所ノ神園神一座韓神

一座ト書ニニエタリ然ルニ本朝神社考ニハ園

神一座韓神二座以上三座ト記セリ十一月

丑ノ日モ祭禮ニ諸神記ニ園神韓神トモニ

道祖神ト云々

一六原祭 上ノ卯日 春日大明神ニ和列春日ノ社ハ

帝闕ニ遠シ故ニ小塩山下大原野ニ移レ之ヲ帝

都守護及后妃夫人参詣ノ夕人ト云々 文徳

天皇仁壽元年ニ始ル

一吉野ノ餅配リ 朔日 高筭上人ノ教堂ニテ花供

懺法ヲ行フ則上人始レ之ヲ花供兼ノ餅ニ

一二月堂ノ行ヒ 朔日より至十四日 南都東大寺ノ諸堂ノ

内ノ大堂ニ本尊觀音 毎二月大法會ヲ修シ靈

符ヲ出ス世ニ二月堂ノ牛王ト云是レ此法會ノ内

七日ヨリ十四日 新ノ能アリ 天晴ニ夜興福寺南

大門ノ芝ノ上ニ如_レ山ノ積_レ薪ヲ燒_レ之ヲ其焰光如_レ昼
今春全剛 室生ノ三座年廻ニ上浴ニテ勤_レ之ヲ諸
人群集ノ見物ハ腰掛ヲ後高ニシワラヒ見_レ之ヲ南
都ノ衆徒ハ帽子ヲ被_レ半臂袴ヲ着_レ立_レカラ見_レ之ヲ

二月堂水取 七日 古翁二月堂ニテ水取ヤ水ノ僧ノ

水ノ音是春旬勿論シ然_レソ冬旬ト覺_レエタル草
ニ、アリ俳學ニウトキ故_レシ二月堂ノ前ニ石井有_レ甚
淺_レ常水一滴モナ_レ二月堂行法ノ内朔日ヨリ七日ノ
間加持修法シテ井ニ向_テ若狭ノト呼_フ時石井ニ
忽_レ清水涌_キ出_ルト_テ澆_レニ_テ澆_レニタリ是_レヲ以_テ硯_ノ為_ス
氷_ト彼_レ冥符_ヲ印_ス古今奇_トス是若狭國遠敷

大明神ヨリ二月堂ノ觀音ニ獻_セシメ玉_フ水_トシ_テニ
代_ニ國史等ニ載_ス

鷹化鳩成_ル 啓蟄ノ候二月ノ節シ 禮記月令出

遺教經會 九月ヨリ至_テ十五日 浴西千本通瑞應山大

報恩寺ニテ行_レ之ヲ倍千本ノ釋迦堂ト云是_レ東山
智積院ヨリ衆僧來_リ以_テ法會_ヲ勤_ム昔奥列秀衡
此寺_ヲ再建_ス秀衡上浴セ_シ時ノ車ノ輪ト云_レノ
當寺ノ什物_シ

一列見_テ十日 是六位以下ノ藝_ル者_ヲ上卿_ヲシ_テ令_レ選_ス

フ止 七

之、玉^ツし式部省兵部省ヨリ 卒^{ヒキテ} 糸^レツ 召寄テ
其器量容儀ヲ見^ルし其職ノ公卿各大政官ニ出テ
行^ル公事し其官位ニ依テ冠ニ花^ヲ 挿^{サシ} 是^ヲカサレ
ノ花ト云^シ

一 嵯峨ノ柱炬^{ツク} 十五日、夜清凉寺 釈迦堂ノ前ニ二丈ハカリ
大炬^ヲ三ツ立テ火^ヲ懸^セ其燃^セ立半^ヲ打倒^ス 松明^ノ
ノ燃ヤウ倒^レヤウニテ農家ノ幸不^レ幸^ヲ占^フシ

一 興福寺ノ常樂會 十五日 涅槃會^シ

一 積塔^{シヤクダウ} 十六日 座頭ノ行^ヒし 毎二月浴ノ高倉綾ノ小

路清壽庵ニ座頭會シテ十宮神ヲ祭ル 是往昔
光孝天皇ノ皇子雨夜、親王盲人ナリシカ薨^レテ後
諸ノ座頭其墓ニ毎年積^テ石^ヲ 吊^ヒ 祀^ヒ遺風^シ
トソ此會ニ諸国ヨリ座頭上浴シテ位階^ヲスム

一 圓宗寺ノ最勝會 十九日ヨリ廿三日ニ至 今此會式絶^テ寺トモ
ナシ 漸^ク 御室 仁和寺ノ境内ニ其寺跡トテ名^ノニ殘^レリ

一 淺間祭^{センケン} 廿日 是^ヲ活法ノ書ニアサミ祭ト云^ヒリ不宜^ニ駿
別府中ノ淺間祭^{センケン}し本宮新宮ニ社^シ 九吉田口大
宮口踏^ス走^シ口皆淺間ノ神ヲ祭^ル 其中ニ府中淺間
大社^シ 木^ノ花^ノ開^{サシ}耶媛^ノ會^シ 瓊^ニ杵^ノ尊^ノ妃^ニ 又 神社考^ニ
大山祇^ノ會^ノ也

記セル富士淺間ノ説ハ甚々奇異シ事繁ケレハ畧ス

一 天王寺聖天會 廿二日 聖德太子ノ御忌シ石ノ舞臺ニテ
伶人ノ舞アリ其式甚々嚴重シ

一 比良ハ講 廿四日 山上ニ天神ノ社アリ比良大明神觀音
ノ垂跡シ其法樂トシテ山門ヨリ衆僧至テハ講
修行セシ今世絶テ其名ノミ人知之ヲ

一 北野ノ御忌 廿五日 吉祥院ニテハ講行ル菅家ノ人ニ
參集ノ被レ修レ之ヲ 吉祥院ハ菅家ノ氏寺シ菅丞
相ノ祖父清公ノ建立シ此會式ハ天仁二年ニ始行ルト
云々又西ノ京ノ神人ヨリ菜種ノ御供ト云フ備フ
夜京俗成群ヲ

一 道明寺祭 廿六日 河内国シ同ク天神ノ御忌シ菅公
伯母覺奇尼公ノ居宅今尼寺シ左遷ノ時名殘ノ
御對面アツテ一宿シ玉フ其別ニ及ンテ
鳴ケハコソ別レシイソケ雞ノ音ノ聞エ又里ノ曉モカナ
ト詠シ玉フトソ依テ今世ニ至リ此里ニ雞ヲ不育ト
云々天神真作ノ御像アリ名物ノ猫ハ當寺ノ
比丘尼ノ手業シ

一 季ノ御讀經 吉日ヲ撰ニ紫震殿ニテ大般若ヲ修

テ四ケ日ノ間ニ僧ニ茶ヲ玉フコトアリ是ヲ行茶ト
稱ス上古ハ季毎ニ行レトソ後ニ八月ニ成聖武帝ノ
天平元年ニ始ルト云々

一時宗踊念佛 寺町五条西入御影堂 新善光寺ニテ終之ヲ

一春ノ鷹 佐保姫鷹サホダカトモ云春神ノ氣ヲ受タルト云テ
佐保鷹ト云トソ白尾繩尾ト云ハ凡鷹ハ冬氣ノモノ
ニテ春ニナレハ山ニ帰ル氣アリ依テ春鷹ヲツカフニ
白鶴ノキミシラズト云羽ヲ以テ鷹ノ尾ニ纏キテツカ
フシ己カ尾ノ白キツ見テ雲中ノ心有テ山ニ帰ル心ナカ
ラシメン為シ依テヨリ遣ルトシ是鷹匠ノ故實ト云々

一キ、ス工鳥 鳴鳥狩 泊山 泊狩 皆雉子狩し前夜其
鳴声ヲ能ク聞スエテ翌朝行テ狩ルし依テ朝鷹トモ
朝狩トモ云俱ニ春ノ雉狩し

一白鳥 カホヨトリ 八雲御杵ニ貌鳥ト出タリ雉子ニモ
山鳥ニモ畫眉鳥ニモセヨ白ヨキ鳥ト云コトし師傳
ナキ作者白ヲ賞スルコトヲ不知雉子ナト心得テ
声ヲ賞シテ句ニ作レル輩ニアリ

一松尾鳥 京師ノ小鳥肆ニテ尋ルニ適アリト云菊イタキ
類ノ小鳥し甚殖ヤスクシテ籠ニ難之月トソ
深山木ノ雪フル景ヨリウカレキテ軒端ニツタラ松尾哉

是藻塩州ニ出スル歌ノ予例ニ春旅行スルニ東ニ河
ヨリ遠列路ニ至テ並木ノ松ニ蟬ノ声ノ如ク喧ク鳴
クモノアリ擔丈ニ問之ヲ松ムシリト答フ袋井懸
河日坂ニテノ間殊ニ多シサレトモ是ハ鳥ニアラス虫
藻塩州ノ歌ヲ考ルニ菊イタ、キ様ノ小鳥
云モノサモアランカシ

一 鶯ノ琴 此鳥鳴時ニ声ニ煩テ両脚ヲ互ニアケテ
琴ヲ彈スル者ノ挫^{ユス}手^テカコトクス故ニ琴ヒリト
云リ照^テ鶯ハ其雄^ヲし羽毛甚^ク麗^ク其声トモニ
艶^ク美ナルヲ賞シテ鶯姫ナト云雄ハ晴^ク
呼^ビ雌ハ雨^クヨブ

一 駒鳥 其声清越ニシテ駒ノ嘶^{イナク}ニ似タリ吉野ヨリ
出スモノヲ上トス吉野ゴト云テ小鳥ヲ好モノ秘藏ス

一 蛇^{アツ} 活法ノ書ニ二月ト六月トニ出セリ蛇トツキタルモノ
夏季勿論シ二月ニ出セルハ誤シ蛇ノ子ハ春季モ可シ

一 陽炎 糸遊 同物ニ名シ春氣地ヨリ升^リ陽炎或ハ
カケロフキユルト云イ升テ空ニチラメキ又降^ル糸
遊ト云し句ニ結フニ可得其意ヲ遊糸イトヲソフ
ナトハ或ハカタク又無骨ニ聞ユ

一 煙^{ヒナ} 長^サ二三寸指ノコトクナル見シ又竹煙ト云アリ

貝ニ節アリテ竹ヲ切タルカコトシ

一 卷^{ニナ} 頃ノ和名枳ニ河貝子^{ミナ} 河螺ノ倍卷ノ字ヲ用ニ非

ナリト云々徒然^ニ 竹ニモミナムスヒト云ハ糸ヲ結ヒ重キ
タルガ河貝子ト云貝ニ似タルハ云ト或ヤシコトナキ人
仰セラレキニナト云ハ誤ト書リ

一 寄居虫^{ガウナ} 和名カミナ 首ハ蜘蛛ニ似テ身ハ蝦^{エビ}ノ如シ小螺^ラノ

空殼ニ入テ寄居ス依テ名トス俗ヤトカリト云
海人取テ鹹魚トストソ

一 モロコ 湖水ノ小魚シ長三寸ヲ限トス鱗ニ光有テ

美魚シ其味^{アツク} 脂多 湖水佳品ノ内シ 江西坂本ニ
モロコ川ト云アリ 此魚最多シ故ニ名トス 大和本州ニ
曰西列ニモモロコアリ 油身魚ト云ト記セリアブラスハ
其鱗^{イタチ} 鱗ノ毛ニ似テ 鱗魚ト云リ 大サ七八寸其味
甚^ク 下品トソ 是モロコトハ大ニ異シ 大和本州ノ説不
谷^{カナハ} 又モロコハ黄^{ワウ} 鯽魚^{コキヨ} ナルヘシナト云リ 是モ違ヘリ
黄^{ワウ} 鯽魚ハワタコシ 江州ノ俗ワタカト云 大ニ成モノ七
八寸又アリ 是モ湖水ニ甚^ク 多シ モロコハ三寸ニ不滿
大小ナシ 又桺モロコト云一種アリ 活法ノ書ニ桺ノ
葉魚ト出セルモノ 是ナルヘシ 形モロコニサモ違ハス
シテ脊黒ク 腹ニ黒筋有テ 桺ノ葉ノ如シ 凡此モノ
湖水ニ多ク有テ 早春子ミウル事 他魚ニ勝レテ

ワウエ

腸サモナシ依テ衆子コロコシ然ルニシツクニキ等ニ靴ノ
字ヲ用イケリモロコハ倍称シ此文字イブカシ
捻シテ此魚ヲソラフ他州ニ在ヘカラス江湖ノ産魚シ

靴ニシノ子取

靴ノ子取 數ノ子シ 和名カド大サ尺ハカリ似テ靴ニ脆甚
多下品シ其子他魚ニ勝リテ大粒ニシテ衆リ連レ依
數ノ子ト称ス其名ニツイテ歲始皆家用レ之
為ニ祝者ト此魚西南ノ海濱ニ決シテナシ南
部津輕蝦夷ニ最多ク一網ニ獲ケル數万ヲトソ
冬ヨリ春ニ至テ毎年取レ之

一椿

苧環等ノ書ニ玉椿ト記セリ玉ハ賞義ノ号ニ

シテ椿ノ名目ニアラス白玉椿ト云モ其麗カクヤヲ羨シテ
玉ノ字ヲ冠ラセタルシ玉ツハキト云モノ正木ノ類ニアリ
九月正木ノカツラノ下ニ記之ヲ又ツラク椿ト云モ椿ノ
名目ニアラスツハキノ多ク咲列リタルヲ云シ万葉ニ
川カミノ列居椿ツキ列ツキニ見レトモアカス巨勢ノ春野ハ
大和国巨勢野此歌ヨリ作例トナリテ專ラ椿ヲ詠ス
杣ツハキノ正字ハ海石榴及山茶花シ延喜式ニモ
海石榴ノ字ヲ書リ順ノ和名枳ニ椿ノ字ヲ記椿ハ
別物シ誤レリトソ然トモ今世倍皆椿ノ字ヲ以テ
通用シ来レリ俳諧ハ殊ニ通俗ノ字宜シ又同ク
苧環ニ椿トハカリハ雜花ハ春ナト記セリ非ナリ
椿トハカリ春季勿論シ梅桃ニ同シ花ヲラス不及

一 スクロノ薄 スギキ 春ノ野ヲ焼タル取ニ生スルヲ云焼野ニ生レテ
墨黒 スグロキ 色ヲ云シ 黠惡 スツロ ノス、キシトソ又顯昭ノ
説ハ末黒ノ略シト云ミ

一 水口祭 稻ノ種ヲヲロス苗代ニ神供ヲ備ヘテ祭ル

一 韭 ニラ 蒿 ノヒレ 蒜 ニシラ 胡葱 アサツキ 此類皆春季ニ出セリ然レ句ニ依ル

胡葱ハカリ急度春シ 韭 ニラ ナトハ其嫩葉 ワカ ヲ食フト
五節アリト本州ニミユ 胡 ノヒレ 蒜 ニシラ ハ六月土用入ル
日用ユルナト凡テ句ニヨルヘシ

一 水葱 ミツ子キ 凍葱 救荒本州ニ生 水 ス 辺淺中ニ類 コト 葱 ニ 細長

其莖頭ニ膏 ト 葵 チ ヲムスヒウルニ白キ小花ヲ開ツト
云リ花ハ夏ト云モノ是シ

一 藍蒔 アイニク 苧環ニ此カナヲアユニソト付ケタリ非シ凡テ

イトエトハ通音ナレトモソレニ差別アリユノ假名ニ
イヲ用ユルハヨシイノ假名ニユヲ用ユルハ不 カテハ 合 カテハ 譬 カタハ 言 カタハ ハ
艸 アユ ハイトモ云ガ通音ニシテ鯉ハコユトハイハレサルガ
如シ其重キ假名ヲカロソツカフト輕キ假名ヲ重
スルノ差別シ

一 葱 クワイ 姑 クワイ 本州其外ノ菜蔬史皆以二字ヲ以ス然ルニ
活法ノ書ニ苧ノ字クワイト讀セタリ苧ハ字畫

仲ノ陰シヲ、フシト註セリ可見

一虎杖

サイタトリ一種ニ名シ其萌出ル時ヲサイタツト
云イ既ニ長シメルヲイタトリト云是ヲサイタツト
云コト或ル古物語ニ曰ク昔大和国ニ住ケル人ノサ
澤ニ出テ彼仲ノ赤長セ時其美ナルヲミテ
契ヲナレ必明日来ルヘン契違ヘフト睦言シ袋ヲ
着セ置テ帰リ翌トク是ニアハント行テミレハ一夜ニ
葉ビロニ成テ昨日ミシ秘モナカリケレハ
キノフ見シ澤ノイタトリ今日ハ早葉ヒロ成リ又袋タベ君
此歌物語ヲ以テ考ルニサイタツトハサマテ旁イヌカハレキツメ支
ト云フ畧シ旁イヌカハレトハ源氏ニ旁イヌカハレタゲナルト所ニイハ

可愛ラシキト云詞シ凡此虎杖ヲサイタツト云
説和名類聚抄大和本州三才圖會等ニモ不
辨レ之ヲシララシ此古物語サイタツトノ出取ナラシ

一若紫

紫竹ハ元山竹シ今諸国種クニ之ヲ深竹ト云
奥州遠州豫州ヨリ多ク出之ヲ若紫ハ其苗古也
春日野ノ若紫ノスリ衣シノフノミタレ限リシラレス
是紫ノ嫩葉ウカヲ以テ摺染タル衣キヌシレノフ文字摺ノ
意ニテ讀リトソ

三月

一巳ノ日、被

是ハ行事ニアラス唐土ヨリ始メ傳テ三月

上巳ノ日水邊ニ出テ神被スレハ疫疾ヲハライ不祥

ヲ除クトシ漢書ニ百官東流ノ水上ニ禊スルコトヲ

載タリ琅邪代醉ニ上巳ハ上ノ巳シ己ニアラス古

人用日ヲ皆十干ヲ以テス十二支ヲ用ユコトナシ

スリ然レトモ今世此説ヲ用イスヤハリ巳ノ日ヲ用ニ慈鎮和尚

アハレトモケフコソ桃ノ花盛上ノ巳ノ日ト誰レ定メケン

然ノ又唐土ニセ魏ノ文帝ノ代ヨリ巳ノ日ヲカテテ三

日ヲ用ユトフ今本邦モ又同之ニ源氏物語ニハ弥生

朔日則巳ノ日シ海濱ニ陰陽師ヲ召シテ被シ玉ヲ

コトヲ記ス則須方ノ被ト云是シ

一青^キ踏^フ

上ノ已ノ日山野ニ出テ遊フコトシ唐土ニ殊ニ有詩題ニ出タリ楊竹亭ノ詩ニ踏^テ青^ク行向^テ春風ノ中四顧^ス山花照眼紅^シ

一寒食

清明節ノ前二日清明ハ三月ノ節シ冬至ノ後一百五日ニ當ル日シ周禮季春吹盛^シラ懼^ル國中禁^ル火^ヲ寒食スト云々杏^ノ粥^ト桃花^ノ粥^ト七^ト束^ノ菜^ノ餠^ト青^ノ精^ノ飯^ト以^テ柗^ノ桐^ノ葉^ヲ漂^シ飯^ト日ノコトニシテ詩文章ニ出俳諧ニサマテ採^ル之^ヲ季スヘキニモアラス寒食ハ句題トスヘシ延寶ノ句合ニ

令^リア^ンスルニ寒食ノ家ニハ自身番其角

古翁判^ニ曰^ク寒食ノ自身番^ト此日ハ火ノ沙汰ヲ忌^ムイハ批判ノ批ヲモ忌^ムヘキト云々

一鞞^シ靴^ノ戲^ト

ユサフリト訓ス又半仙トモ云註曰寒食ノ節立^テ鞞^シ靴^ノ為^レ樂^ト呼^テ半仙ノ戲トイフト云々又或記ニ鞞^シ靴^ハ元^ト北方ノ山戎其子ニ趨^ル捷^ノ術ヲ習^ハシ人^ヲ為^レ高木ニ細^ク懸張^テ綱ノ上ニ座^シ或ハ上下^レ令^テ沸^ラ之^ヲヨリ起^リタル業^シ中華ノ兒童壯子倣^シ之^ニ為^レ戲ト今本邦ニアル輕^カ趨^ルト云々

一小子^ノ驚^ル

是又寒食ノ日且^ツ春遊ノ戲ノ小子^シ

只小寺ヒリトハカリ句ニ作り名分ニテハ春季ト
ナラス俳子可得ニ其意ツシ 藻塩州ニ
秋ノ稻ノヲサミル世ノウレシキハ春ノ遊ノ鞠小寺ニテ

一田鼠化鶉ト成ル 清明ノ候三月ノ節ニ禮記月令ニ出
三才圖會ニ曰此ニ田鼠ト称スルモノ鶉^{ウサギ}ト称スルモノ鶉^{カヤノキ}ト云ニ
ニテウゴロモト云又此鶉ト称スルモノ鶉^{カヤノキ}ト云ニ

一住吉ノ汐子 三日 泉別境ノ浦無双ノ壯觀シ

一藥師寺最勝會 七月ヨリ七ケ月ノ間最勝王經ヲ講ス
天長七年ニ始ルトソ 南都七大寺ノ一區シ

一泉涌寺ノ岡山忌 九日 活法書八日ト記ス違シ 洛東泉涌寺ハ
左大臣緒嗣公 齊明三年ニ建立シ 中古建保年中
秋ノ俊苜再真之ヲ 後人皇百四代後土御門ノ院
以降^{コノカタ}至今^{イマ}ニ 御陵所ト成ル 宗ハ重禪律真言ヲ

一高雄法華會 十日 洛西於高雄山神護寺法華大會
修ス 此寺人皇四十八代 称徳天皇ノ御宇ハ
幡大神宮ノ神託ニヨツテ四十九代光仁帝和氣ノ
清曆ニ余ノ州創シ玉フ時神願寺ト称ス 後天
長二年改之ヲ 神護寺ト号ス 當山所懸ニ鐘接
ノ鐘橋ノ廣相^{フキ}所作ノ序菅原ノ是善 菅丞相父
之銘 藤原ノ敏行ノ手蹟シ 是ヲ三絶ト云此

鐘令ニ存ス本朝無雙ノ珍器シトツ

一安良花^{ヤスライ} 十日 是ヲ正花ニ用花能士ニアリ此祭ノ由来

不知故シ花ノコトニアラス西加茂上野河上村ノ三
郷ヨリ傘鉞及囃^{ハヤシ}モノヲ出シテ今宮ノ社ノ拜殿工
来ル神事ニノ甚壯觀シ京師ノ貴賤群集ス是
春ノ疫氣ヲ祓フ祭シ今宮ノ神社ハ疫神シ正
曆年中天下大キニ疫癘ノ万民苦死ス依テ此神社ヲ
建ラレ祭ラシム其時藤原ノ長能
^{後拾遺}今ヨリハアヲフル心マシマスナ花ノ都ニ社サタメツ
徒然竹野植ニ曰安良祭ノ囃^{ハヤシ}高雄ハ法華會
ヤスライニハテヨトコツ囃スヘキヲ高雄ハ法華會ヨ

ヤスライ花ヨト訛リ囃スシト云ニ

一吉野會式 十一日 勝手ノ神前ニテ法華千部修行ニ
近国ノ諸民群集ス折ニ花盛ノ年ハ殊更^ト之
京大坂ノ遊人夥ク来ル

一禮辨講 十二日三日 兩日江州日吉八王子ノ神前ニテ
行ル天台禮拜講ト称ス

一石清水臨時ノ祭 中吉日 南条ト云名高キ祭禮ハ天
慶五年ニ始ル是スキニシ年此御神ノ以御威カ
將門カ乱ラシツメ至レ御報賽^{カサリモノ}シト云ニ

一稻荷ノ御出 中ノ日 油小路ノ西九条坊門ノ北ノ御旅
乗エ神輿ヲ出ス 五基 四月上ノ卯ノ日ノ祭礼ニテ
御旅居シ 都下ノ男女群詣ス

一鎮花ノ祭 ハナシツス 是亦非正花ニ疫神祓シ 三輪 狭井ノ
両神ヲ祭テ 神祇官ニテ行レ之ヲ

一壬生念佛 ニシブチノブツ 十四ヨリ廿四日ニ至 念佛法會ノ間 近郷ノ百姓
種ノ輕擡 カレワカ 傀儡舞 ツクリマイ 蜘蛛舞等ノ狂舞ヲナス 都下
ノ貴賤群參ス 嵯峨及千本ノ念佛トモニ鎮花
法會ノ遺意シ 皆疫神祓シ

一勸學會 十五日 大学寮ノ諸生 江州西坂本ノ寺院
行集リ 法華經ノ文句ヲ題トシテ 賦シテ詩ヲ云シ

一御身拭 ヲミノゴイ 十九日 嵯峨清凉寺ノ釈迦佛ノ身体ヲ
白布ヲ以テ拭シ 其布ヲ參詣ノ諸人ニ授テ 袂
袋或ハ数珠帛トス

一御影供 ミチク 廿一日 ミエクウトモ云弘法大師ノ御忌シ 洛下
東寺 秘密傳法 弥勒山 金光明 四天王 教王護国寺ト号
又高雄ノ神護寺 御室 仁和寺ニテモ 此日行レ之ヲ

一雲入鳥 春氣ニ乗シテ 高ク飛アカルヲ云シ 歌書ニ

雲鳥トツケタルハ鴈ト云説アリ俳諧ハ其差
別ナシ只一切ノ鳥シ

一鳥カヘル 秋ワタリタル諸鳥ノ春帰ヲ云シ

一麥鶉 春州麥ノ中ニ子ヲ哺ス鶉シアイフトスハ
鶉ノ雌ヲ云シ雌ハ嘯ナシ子ヲ哺ス時鳴クヲ
ヒ、ナキト云シ

一櫻魚 和漢三才圖會大和本州 和名抄等其外
魚史ニモ不載之ヲ 櫻川ノ謳ニ櫻魚ト聞クモナツ
カシヤト作ルヲ以考ルニ常陸国 櫻川 霞カ浦ノ

邊ニハカク名ツクル魚アラント覺ユテ予先年筑
波登山シテ彼辺一見セシ時アタリニテ好事者
尋子侍ニ答テ曰イカニモ此国ニテ昔ヨリ櫻魚
云傳エタル魚有リ春暖ヲ得テ此河ニ多ク上ルヲ
細ヲモテスクヒ取侍ル則此浦ノ名産ワカサキト云
魚是シト云リソレヨリ水戸ノ府ニ到リテ武学
匠ニ逢テ此事ヲ尋ルニ中古常陸ノ国史改リ
スル時國中名産ノ品類ニ至リ櫻魚ノ名古書
往ニアリテワカサキニ極リヌト云ニ然レハ此魚他
別ニテハワカサキ常陸ニテハ櫻魚ト云コト必セリ
大和木州ニ曰ワカサキ 漢名不知 鯿ノ如ク色白
小魚シ西列ニハ有コトヲ不聞 江戸及東国ノ

江河ニ多シ但シ若州三方ノ湖中ニアマサギト云
モノ有リ是ト同類カト云ニ

一櫻ウグヒ 正字不詳 賊ノ字ヲ用來ハ倍字シト
此魚所ニニアリ先江湖ニ多シ五六寸ヨリ大キ
モノ七八寸背黒ク腹鱗赤シ信州諏訪ノ湖水ニ
テ赤魚ト云イ筍根ニテ赤腹ト云フ豊後モ多トシ
其外所ニニアリテ春花岡散頃取モノヲ櫻
ウクヒト云シ鯛モ櫻ノ時節多ク釣ラ櫻鯛ト云カ

一菜子 カワコ 蟹シ 此虫ヲ育ニ始終菜ノ嫩葉ヲ以テス
依テクワコト云シ 蚕ノ字カイコト和訓スルモクワ

カシ 反カナレハヤハリクワコト云意ノ訓シ 伊勢物語ニ
中ノクニ戀ニ死ナスハ菜子ニソナルヘカリケル玉ノ緒ハカリ

一辛夷 コブシ 葉柿ニ似テ紫ノ苞紅焰アリ又白花ノ
モノアリ小幣ノ如ナレハ幣コブシト云紫ノモノ木
蓮ニ似タリ香氣蓮ノコトク蘭ニチカレ其荅筆
似タレハ木筆ノ名アリ

一壇ノ躑躅 ダン 上加茂ノ南ノ山壇ト云取躑躅甚
多ク景象又類ナシ依テ名ツク

一キリシマ 紅白紫數種アリ 元隅州霧嶋ト云

嶋ヨリ虫セルツシ

一ツフノ浦梨 勢別 芋生ノ浦 梨花ノ名所也 俊頼
新古今 サツラ 麻ノツフノ浦波立カ(リ)ニレトモアカス山梨ノ花

一木瓜^{ボケ}ノ花 數種アリカラボケハ花初メ白ツ中頃淡紅
後深紅トナル 檀子ト云ハ 竹木瓜^{ボケ}シ高サ一尺ハカリ
花甚深紅子ハ 檀檀ノ如クシテ小シ武列相列ノ
野ニ多シ他列ニハミエス其外寒ホケ淀ホケ
長春ホケト云アリ

一通州ノ花 紫色シ又白花ノモノ有蔓シ 蕪馬ノ木ノ
芽漬ト云モノ通州ノ芽シ香氣アリテ佳品シ花ハ
春實ハ秋シ此類ノモノハ花トコトハラ子ハ春季慥ナラス

一紫荊^{スハク}樹ノ花 畿内江東ニ多ク人家ノ籬トス春三
月淡紫ノ花 蕪^{ムラサキ}用花ハ毒アリトツ是異朝ヨリ
来ル 蕪^{ムラサキ}枋ニアララス 和ノスハウ花シ不可混ス

一石南^{シヤク}花 木ハ高カラス葉ハトヘラニ似テ長ク厚花ハ
八重ニシテ淡紅 似芍薬ニ 和列吉野江列金勝山
多シ 石南花ノ字宜シトソ 唐土ニテ緋櫻ト云ハ是
ナリト云ミ本邦ニテハ是ヲヒサクラトハイハス 櫻ノ
八重ニシテ赤キヲ帯ルモノヲ緋櫻ト云シ

一 小朶ノ花 小樹叢生葉ニロクク狭ク立條アリ三月
小白花ヲ用クコ、ナリ咲テ白キコト如雪蒸糲ノ如

一 小梅花 是畿内江東ニテ庭梅ト云モノハ花甚小
シテ梅花ノ形アリ色淡赤實ハ梅ニアラス櫻ノ實
サシ大ナルモノハ櫻ノ實ハ熟シテ黒シ庭梅ノ實ハ
熟シテウス赤シ小兒好テ喰之ラ 是大和本州等
出ス山櫻桃ハ或説ニ小梅ハ信濃梅ナルヘシトモ
又臘梅ナルヘシト云リ信濃梅臘梅トモニ三月花
咲モノニ非ス是無替ノ説シ

一 庭櫻 櫻ノ別種ニレテ小樹ハ花葉櫻ニ似テ甚小
又霜櫻ト云アリ一類シ庭櫻ハ花ウス赤ク霜
サケラハ花純白シ

一 馬酔木花 葉ハ忍冬ニ似テ味苦シ暮春小白花ヲ用
サシ黄ヲ帯フ花下ニ垂レ咲ク歌ニアセシトヨメリ馬
此葉ヲクラヘハ酔フ依テ名トス
取ツナケ玉田横野ノハナチ駒ツ、シ交リニアセシ花咲ク

一 令法 山茶科 又ハタツセリトモ云木モ葉モ淀川ツシニ似テ
花ハ灰白シ飢年ニ採葉蒸テ食ス佳味トソ

一 莖 ヒトヨ州 コニヒキ州ト云シ畿内江東ニテ相撲取

ワケ

世

ト云其花ノ鑑有ル取ヘ両花ヲ相懸引アヒテ見
童戯トス依テ此名アリ 千律師草ノ賛曰葉
系條ノ如クテヨロク立ル頂ニ一粟ノ露ホトニ咲リ
アヤメ燕子花ノハナクシキニモ似ス葉ガリノ幽ナルニ
万ツノ哀モコセルカレト云リ 翁宮根ニテ
山路来テ何ヤラユカレスミレ州

一新茶 春トレ其トスル論古今ヲエス 宇治ノ茶ツミ及
茶ヲ制衣スル向ハ春ニ他別ニテ新茶ヲ賞味スル向ハ夏
只新茶ノカホリナト云モ其レ猶チ文字ノ所ニ未女記

一春菊 レユキキ 葉ヨメカハキニ似テ 莖ノ高 サ 一二尺三月 淡碧石

花ヲ用ク 野春菊ト云又菜蔬ニ 苜蓿ト云モノアリ
倍シキト呼葉香氣アツテヒタシモノトシテ食ス花
純黄ニシテ春夏秋ソイハズ 莖ノ生立時ニ咲ト不可混ス

一東菊 トシキ 和本州ニ葉萩ニ似テサト大シ 岐割ナレ春三
月花ヲ用ク 菊ノ如ト云リ又秋ニ一種アリ 單ノ碧花シ

一高麗菊 本州及花史等ニ不載 按ニ葉柀ニ似テ面
碧滑 裏白ク莖ニ節多ク高サ及ハカリ 節曲アル
故ニ舒カタレ春黄花ヲ用ク 俗高麗菊ト云フ
畿内江東圃庭ニ多シ 又苜蓿ノ一名高麗菊
ト云説アリ 雜信

一 櫻サクラ 花

花色トモニサナカラ 櫻ニ似テ甚ク小シ今ノ花
肆ヤニ一株數莖アルモノ小キ 陶器ニ植テ賣是ハ好事
ノ者實植ニ數種異花ヲ出ス或ハ紫紋薄紅白花
モノ有リ花モ大ク如錢九輪ノ七重ノト云モ此類種ノ

一 馬ウマ 蘭

三四月淺紫ノ花ヲ開ク花六瓣シ葉ハ水仙及
蘭ニ似テ甚厚ク硬シ一モトヨリニ三十莖ヲ生ス元
野ノ今圃園ニ植テ愛花ノ和名抄ニカキツタ
ノ一名ヲ馬ノト云モノ誤レリトソ

一 代エ 儉ヒ 竹

葉ハ車前ノ竹ニ似テ稜ノ如ク元トニ皮ヲエリ
莖ヲ抽テ春花ノ肉ノ紅色或ハ柿色淡黄ノモノ
今庭院ニ植テ愛シ之ヲ白花ノモノ稀ニ有一名山茨
其根蝦ニ似タリト云々

一 金鳳キウホウ 花

一名毛ノ良ノ又兔ノ田芥子ト云大毒ノ葉ヲ
モニテ寸シロニワクルニ火ノ燎ノ加ク忽クフクレテニ瘡ヲ
截ス石龍ノ肉ト同事シ春小黄花ヲ開ク甚光澤
アリ千葉ノモノ猶可ク愛

一 華ケ 鬘マン

荷包牡丹ノ一名魚兒ノ葉ハ牡丹ニ似テ花ハ淡
紅白ノ形ヲ佛具ノケニシニ似タルヲ以テ名トス

一 丁テイ 子シ 竹

花ハ丁子ノ形ニ似テ淺葱ノ葉ハ柎ノ如クニテ

中ノ立條白シ

一眉ミユツクリ作ノ花

苧環ニ一説鬼筋又美人草是ト記セリ

皆非シ既ニ活法ノ書ニ鬼アサミ薊ハ二月ニ出シ美人草ハ

夏シ眉作り別物シ按ニ畿内江東ノ原野ニ女粧

具ノ眉掃ニサナカラ似タル花アリ倍呼テカキ

ミシ草ト云フ葉ハ鼓草ニ似テ長シ莖細ク嫩ニ

シテ一莖一花シ紫褐色ノ花ヲ開ク其蒼メル時

ナシ眉掃筆ニ似タリカキミシ草ノ倍称ソソ

ラク畫眉草ナルヘシ女粧ノ眉掃ソ眉作トモ

眉畫トモ云シ大和本草ニ圖ニタシ猫草ト云

モノ、花是ニ似タリ

一仙臺菘

今州花肆ニアルモノ花ハ黄ニシテ豆ノ花

如ク葉ハ野菘ニ似テ嫩ヤワラカ本州菜蔬類ニ載

タル苜蓿ニ似タリ但シソ、イハ滑菜類ニシテ

夏秋花ヲ開クト云モノ異シ

一金錢花

臘月ヨリ花咲カケテ春最盛シ依テ常

春花ト云其色金紅シ中ニモ春花至テ佳シ

一雞頭ミツブキ實ノ花

又芡實ヲニバスト訓ス花苞ノ形チ雞

頭ニ似テ葉ハ蓮ノ甚大ナルモノシ葉ニ毛莖ニモ

毛刺有所古キ池ニ多シ横列昆陽ノ池ニ一面

有之花ハ春ミツフキトハカリハ甚シ

一ゼンマイ 紫萁ゼンマイト訓ス 狗脊ハ別物シゼンマイ
非ス然レトモ俳諧ニハ人ノ遍ク知来ル文字モ宜シ

一サクラ衣 表白 裏紫 山吹衣 表村葉 裏黄 裏山吹 表白 裏黄 ツシ
衣 表白 裏紅 是皆倍家ノ衣類ニアラス裝束ノ
服色シ飾抄及桃花葉葉等ノ書ニ委出セリ

篋 蘊 輪 卷之二 方竟千梅選

四月

一孟夏ノ旬 朔日 二孟ノ旬ト云十月ト兩度シ群臣ニ御
酒賜_テ天子自ラ政ヲ聞召義シ凡_ソ旬行セ玉フ
云コト事_{コト}毎_ニアリ内裏御造當ノ後行セ玉フ
新所ノ旬ト云御即位アツテ政ニノソニ玉フ時ノツハ
万機ノ旬ト申ス十一月朔日冬至ニ當_ル時行セ玉フ
朔旦ノ旬ト云シ其中ニ夏冬ノ旬ハ嚴重シ依テ
二孟ノ旬ト申侍此日諸臣ニ扇ヲ玉フニヨリ扇ノ
并ト云并賀アリ

フシ上

聖

一 主水司供氷

朔日

其ノ初ノ日ナレハ先令日カケテラル献之

別シテハ六月朔日ニ貢之スル人皇十七代仁徳天皇

六十二年額田ノ大中彦ノ王子横津国ニ狩シテ

園ツゲ雞野ト云所ニテ始テ氷室ト云モノヲ見出玉ヒ

仁徳ノ聖主ニ献氷ヲ玉ヒヨリ始ルト云ニ

中勢

夫木休ニシヘノ園雞野ノ御狩シヨリソ氷室ヲモノタテ始ケン

一 青簾

朔日

御殿ニ新簾ヲ懸替ラル、ヲ云シ此日

掃部寮冬ノ御座ヲ撤シテ夏ノ御座ヲ奉

宮中所ニノ御装束改之ヲト云ニ

一 虎杖競

朔日

貴船ノ御神事ニ此日加茂ノ氏人

騎馬ニテ比誦ス帰ル時市原野ノ連理ノサト云所ニ

シイテ虎杖ヲ争ヒ取り其大小多サヲ論ス例年ノ

コトニテ甚々真ニシ

一 山崎月使

三日

是山崎離宮ノ神人年番ニテハ

幡ハ悉ル其役ニ當リタル人ヲ日ノ使又日ノ長者ト云ヒ

年中行事ニハ幡ノ日ノ當ト云是ニシ

一 鷹鳥屋入ル

鷹ハ四季ニ在テ冬ヲ第一トス暮春ノ

頃ヨリ毛ヲ易ルニヨツテ其間ハ鳥屋ニ籠メ置シ

是ヲ鳥屋鷹ト云鷹ノ餌忘ト云ニ此時ノ

コトニテ夏季ニシ

一戒壇堂閑帳

八日

敷山ノ山上ニ在リ此日山門ノ花

插^ミトテ貴賤群詣ス婦人ハ女人堂ニテ登ル

一葵祭

中ノ酉日

加茂ノ御生ノ御神事ト云是し

勅使アリ此祭將軍家^ユ葵^ヲ献^ル中絶ナリシカ廢レ

タルヲ興シテ元禄七年ヨリ令^ニ復^ニ行^ハ之^ヲ至^フ凡^ソ

祭トバカリ云ハ葵祭シ^ニ檢^シテ此神事ニ葵^カ蔓^マヲ用

ユル事公事根源ニ曰昔夢ノ告有シヨリ今日人

葵蔓ヲ懸ク加茂松ノ尾ノ神司ヨリ前日献^レ之^ト

云、禁裏御翠^ニ簾^ス毎ニ懸^レ之^ヲ氏人其外ノ

人家簾及^テ方^ツノ器物マテニ皆懸^レ之^ヲ諸人頂^ニ

カサシ或ハ^ハ願^ハ卷^ニニ^ハ挾^ム依^テ葵祭ト称スコノ葵

蔓ト云モノ常ノ葵州ニハアラス加茂ノ山中ニ^ニ有

外ニ^ニシ^テ古記ニ曰加茂ノ山中ニ^ニツ^ツ葉ノ葵有^テ其葉

團^ムウ^キ矣^リ地^ニ布^テ生^ス葉表青^ク裏紫^クヲ帶^フ毎

例御神事ニ加茂ノ北山中村ト云所ヨリ奉^レ之^ヲ

儼^サ蔓^州ニモアラスニ葉州モロ葉州モロ蔓^ト云^シ

イカナルハ其神山ノ葵州年ハフレトモニ葉ナルラン小侍從

日影山ケフノカサシノモロ州カケテ頼^ト神ハ知ラン忠基

凡四月ハ神事月ニシテ京師及畿内江東ノ祭礼諸社

悉^ク當^ル月^ニ記^ス不^レ違^フ依^テ葵祭ノ^ニ記^ス餘^ハ略^シ之^ヲ

一關白ノ加茂詣

御神事ノ前日

天禄二年撰政謙徳公

ヨリ始^ル神人葵蔓ヲ持社頭ニ奉^レ迎^レ則^レコレヲ

對^ニ懸玉^ヲ神前^ニテ東遊求子駿河舞ナト有^ト云^ニ

一高野ノ花供 廿一日 非^ニ正花^ニ 大師ノ衣ヲ取カ^レラル^{コト}シ

一松前^ハ渡^ル 是北海ハ冬春風波^アラリ^テ渡海^シガメ^シ

故^ニ南部津輕等ノ商人四月^ニ至海平^{カニ}ナリ^テ

松前^ハ渡^リ産物ヲ交易^シ其荷物ヲ運送^シテ

秋^ニナレハ徐^ク仕廻^イ歸ルヲ上^ルト云^シ依^テ渡^ル

上^ルヲ復^シ秋ノ季トス

一梅天 和清ノ天 四月ノ天ノ至^テ清和ナルヲ云^シ梅月

梅溥 トモニ四月ノ異名^シ五月ハハヤ梅ノ子^ニ執^ル

四月梅子ノ青^クト盛^ルニ天氣相合^ヲ以^テ梅天ト云^フ

一駒牽 廿八日 是四月ノ駒牽^シ是ハ来月五日北近ノ

馬場ノ騎射ノ馬^シ及射手ノ行莊ヲ今日御庭^ニ渡

サレテ敷覽^シ玉ヲ天子武德殿^ニ御幸^シ其間東遊

納^メ蘇利^等ノ樂^{アリ}以上公事根源^ニ出

一燕子花 ^{カキツハタ}紫羅傘 ^{イチハツ}胡蝶花 ^{シヤガ} 是^ハ大和本州^ノ其外^ノ州

花史^ニ記セル正字^シサレトモ俳諧^ニハ人ノ知来^ル通

俗ノ字宜^シ假名付^イラス無^シ造作^シ

一ホウチヤリ 此州園史州史^ニ不載俗狐ノ挑灯ト

云モノ是しトソ莖ノ高サ一尺ハカリ葉ハ野車ニ似テ
サト細シ白花ニシテ内ニ青キイロトリ 穀イロトリ 豎ニ三條スジハカリ
有花垂レ咲テマコトノホウキヤク 鑿ホウキヤクニ似タリ江東
原野ニ多シ

一風車 蔓州鐵線ノ類シ花ハ八瓣ニシテヒトエノ
蒼碧色又白花千葉ノモノアリ

一鴨足キバサウ 和名鏡面州石上ニ生ス蔓ツル州州シルカニ
州州ト称スルモノ數種アリ螺厩州白前州白蘇
皆カ、三州ト訓ス其種モサ異アリトソ其中ニ鴨足
州ハ則鏡面州ト云ク

一岩藤 花モ葉モ藤ニ似テ小シ莖ヒクシ稀ニ白花ノ
モノ有テ藤ニ紫白アルカ如シ

一踊花 高サ尺ハカリ葉ハ小葵ニ似テ葉ノ元ニ小白
花ヲ開ク其形チ 兒童ノ笠ヲ著テ踊ルニ似テリ故ニ名トス

一茶ヒキ州 烏麥カラスムキ一名燕麥田野ニ自生ス苗葉
小麦ニ似テ弱ク小シ穂細小兒穂粒ホツグヲ瓜ノ上ニ載レハ
旋回スルコト茶磨チヤウスヲ挽カコトシ依テ此名アリ

一ワクラ葉 病葉しワクラハシキ葉ト云畧し若葉ノ時
紅葉シタルモノタニク有リ是病葉し又捻シテノ

嫩葉ヲ云トモイヘリ歌ニワクラハニ問人アラハト讀ハ懶近
或ハ不慮ト書リタミサカ不慮人ノ問ハハ云意一説
是モ右ノワクラ葉ヨリ出タル詞トソ多葉ノ中ニタミサカ
思ヒカケス紅葉シタルモノアレハ是ヨリ先詞ト云ミ

一常盤木落葉 松櫪等ノ落葉也或ハ雜ト云説モ下
公羽 清滝ヤ波ニ散コム青松葉 是隻句也
證句トスヘシ

一花柚 夏季ニ用ユルハ柚ノ花也或ハ又花ヲチノ至テ
小ナル子ヲ花柚ト云シ又柚ノ別種ニ小柚子アリ是也
花柚ト稱スソレハ秋也

一美人竹 罌粟花ノ別種ニ小ナルモノシ花四瓣紅白千
葉單葉數種皆愛スルニタエタリ虞美人竹ト稱ス

一鷹爪 花黄ニシテ山吹ニ似タリ花ヒラ末銳ニテ鷹
ツメノ如シ葉ハ柵ノコトク木ハ連葉ニ似タリ年々
楸ヲ出シテ花繁ク咲リ浪花ニ多シ

一白丁花 庭院ニ植梢ヲ一様ニ芬楡エテ籬トシ或
雨落ニ植之ヲ四月小白花ヲ開ク又同類ニテ
花ナキモノ有女木男木ノ異也

一山千サノ花 賣子木ト名ヅク竹ニアラス高サ五七尺

山中ニ大木アリ葉ハ柿ニ似テ尖^{トガ}レリ 四五月
焦^{ユカレ}タル紅色ノ花ヲ開ク

一 厚朴^{ホク}ノ花

和名抄ニホウガンノト稱ス葉ハ櫛^{カシ}ニ似テ
大し花ハ牡丹ニ似テ甚^タク大ク淡紫色^{ツク}色シ大木有
本州ニ花細ナル紅花ト云イ葉四季不凋^ニ落^ニト云モノ
本邦ノ厚朴ト不^レ合漢和土木ノ性異ナルカ

一 藪^{ハキ}ノハキ

椿數種花史ニ出タレトモ數椿ト云各目ハ
ナレ是野椿ノ藪ニ咲クレテ初夏ノ頃花^ル
モノヲ云ナラン搥^シテ夏季花スクナキニ依テ
サマテナキ物モ用イ出ス治法ノ例^ト

一 椋^{レユロ}ノ花

三四月樹ノ末莖中ヨリ苞^シヲ出シ長ノ後
花穂^シヲナス黃白色若樹ニハ不咲治法ノ書ニ寸椋
椋ノ三字ヲ以テレユロト記セリ出所イブカシ

一 ス^ノ子

篠^スハシノヒサシ竹ノ小ナルモノシ梅^ニ竹ノ子^ニ
ヲ自然^シ穀^ゴト云リスノコハ篠ノ子ナルコトイテ^レシルレ
本州等ニハ出サス

一 岩梨

畿内江東ニテイバナレト云山中岩ノハザニ
生ス苗ノ高サ二三寸地^ニ布^キテ生ス三四月葉ノ間ニ
子ヲ結フ楊梅^{ヤメ}ノ如シ其味耳酸^シ小兒好^シテ食
芭蕉翁因分山題^ニ幻住庵^ニル右ノ句

軒チカキ岩梨ヲルナ猿ノ足 千律師

一蓮ノハイ 頃ノ和名抄ニ蓮ノ齧カサネ 和名ハイシ五六月
採テ之ヲ 喰ト云ニ則齧ノ字ハイト讀セタリ

一鴈カウコウトリ 鴈 カンコ鳥 カウホ鳩 又ツ、鳥フ、鳥皆鴈鳩ノ
文字ヲ以テス大和本抄ニ曰カンコ鳥倍ニ杜鵑ノ
雌メシト云モノ遠カラス其声不喧カヒスレ 寂シ音不同ト
イヘトモ風韻ヒトシト云ミ

一バン方目鳥 大小二種アリ 大バンハ頭黒ク頬ノ邊白シ
小バンハ項ノ對リ毛初青ク後紅ニ成時即暮シ

一葭原雀 本名鸛カウカウ シゲラヨシムシリキヤウクシ
ヨシ雀トモ云 其声甚喧カヒスレク レテ昼夜鳴六月
土用ユ入即止声ツ

一蚊喰鳥 此鳥一切ノ禽史ニミユス江東ニ在リ鳩ノ
ヤト小ナルモノニシテ鼠色シ黄昏人家ノ軒ニリニ
飛行シ或ハヘアワ擗隘ニツリ居テ蚊ヲ喰フ 俗蚊鳥ト
云し予兩度見之ヲトイヘトモホノ暗キ所ニテ其嘴クサビ
等ノ形容シカト不見届 依テ委難記レ

一アミカ土鴨鳴 春ヨリ秋中マテ有リテ木ノ枝ニ栖スミ雨ナラント
スル時鳴ナレハ夏ト定カタレ句ニ依ルヘシ

アミカ
スミ
アミカ

一 塩鳥賊

夏季ニ用ユルコト邊土山中ナトノ海濱ニ
遠キ田舎ノコトシ江戸大坂等ノ繁花ニハ生
鳥賊春ヨリ四五月ニ至リ最中有テ塩鳥賊
シ無用^ユト翁 鳥賊賣ノ聲ニキラハシ時鳥

一 蝦魁

蟹ノ属ニシテ甚タ大ナルモノシ前ノ両脚
長キコト尺餘身ハ五六寸甲アリ其子ヲ生ス
蟹ノ子ノ如ク殼ノ外腹ノ下ニアリ卵シ活法ノ
書ニ龜ノ字シ用イツケリ龜ハウミカメト訓ス
書違ナルヘシ

一 蟹魁

蟹ノヒシコ漬ナルヘシトソ魁ハ蟹ノ属ニテ

小ナルモノシカニヒシコ不解但蟹肉醬ナラシカ

一 鮓鮓

活法ノ書ニ生熟ハ春シト記セリ是生
熟トコトハラストモ鮓鮓ハ勿論春シ諸国鮓
有トイハトモ江湖ノ鮓本朝ニテノ名産シ然ルニ
中春ヲ江湖ノ鮓ノ盛トス鮓ヲ公ニ献スル則
春シハ俳諧ハ書籍ノウヘノ沙汰ニアラス其物
當用ニテ究ムル事蕉門ノ口決シ

一 袋角

元鹿ノ角 初春落テ直ニ嫩角生シ其
長ス秋ニ至テ硬^カシ其長ス時ツ袋角ト云シ

五月

一加茂ノ足揃

朔日

是五日ノ競馬ノナラシシ五日ト替
コトナリ甚壯觀し京師ノ貴賤群集ス

一薬玉

ヨモギ 菖蒲

艾ヲ五色ノ糸ヲ以テ貫キ結タルモノ

ナリ先御笠簾ニ懸之ヲ又群臣ニ給之ヲ各コレヲ

掛^ツ辟^ニ疫氣ヲ被^フ術^シ公事根源ニ曰五月五日

典^ニ藥寮ヨリク^ス玉^ヲ献^ス長命縹^續命縹ノ

名^{アリ}四月加茂ノ祭ノ日御笠簾ニカケシ葵ヲ

今日^ニ藥玉ニ懸カヘラ^ルト云^ニ徒然^ノ艸ニモコノ

コトヲ記セリ

一削懸ノ甲カケ 五月 此日門戸ニ幟ヲ立甲兵ノ器ヲ飾ハ
邪氣ヲ祓フ術ニ唐土ニ艾ハ人艾虎ヲ作テ門上ニ
懸ケ頭ニ載クコト荆楚歳時記ニ出セリソレト同意シ
ケワリカケハ以柀ヲ作レ之ヲ元日祇園ノ削懸ヲ
標格トシテ甲ノカサレトス是又邪氣ヲ祓フ神
呪シトソ

一鳩鴿舌ヲ去ク 此鳥ツタメキニスエト假名付セリ非シトソ
クヨク鳥ク 本牝ニ鳩鴿ク 鴿鴿ク 鴿鴿ク トモニクワヅクニト
訓ス五月五日其舌ノ尖リシ去ハ則能ク人語ヲナス
聲尤清越シト云ニ鴿鴿ハ喞喞鳥ク 喞喞鳥ク トモイヘリ
鴿ク ニアラス能其出所ク 可見ル

一競渡 鳧車 水馬 是皆五月五日川ニ出テ其
遅速ク 競遊ク フシ云シ

一真手番 荒手番 一トモニ騎射し江次第ニ曰五月
五日天子豊樂殿ニテ騎射ク 敵覽ク 作射禮公
事ク 真手番 荒手番ノ式アリト云ニ 是則
禁庭ク 於左近ノ馬場ニ射騎ク シ云シ左近ノ荒
手番 三日 右近ノ荒手番 四日 左近ノ真手番 五日
右近ノ馬場ノ真手番ハ六日シ此日フヒシリノ目ト
云近衛ノ隨身射ク 著スク トコロノ禍ク ノ尻ク 引
折ク テ着ク 依テ六日ノ騎射ク フヒシリト云 引折ノ
畧ク 但今騎射トハカリ句ニ結ヒテハ夏季慥

ナラス武門ニ常ニ騎射アリ

一印地打

五日 壯士兒童東西ト立分キ小石ヲ打

アイ小石ヲヒイテ戲ニ闘争勝負スルヲ云シ昔武門ノ兒童ニ軍場ノ駈引ヲ習ハシムルヨリ始江東佐々木ノ社ノ祭禮五月五日今ニ印地打アリ

一棟ノ佩

五日 是邪氣ヲ祓シタメニ棟ノ枝葉ヲ腰

帯卷シシノ字棟直標ハ別物シトソ

一嘗糲生

芒種ノ候五月ノ節ニ 禮記月

一有無ノ日

廿五日 凡禁庭ニ齋祭祀ナキ日稀

是ノ日村上天皇ノ御国忌ナル故ニ定ニ祭祀ナシ然レトモ急ナル事アレハ行ルシ依テ此日ツ有ナシノ日ト名ツク

一大原志

廿八日 丹波国大原ノ社へ参ルヲ昔ヨリ所

ニテモツハラザシト云習ハセリ當月農事ニサシツドフ故ニ迎來三月ニ神事トリ行フヲ春ザシト云リ大原ノ神社元ト伊弉丹尊中古伊弉諾尊天照太神ヲ加エテ今為ニ三社ト云

一山田ノ御田扇

太神宮ノ御田植ニ五六尺有扇

ヲ作り棒ノ先ニ付テ之ヲ 神官コソク打振リ見物ノ
諸人ニ令テ戴依テ此名アリ

一花カワミ 是昔ヨリ論アルモノシ凡ソカツミト云フハ
蔣ノ松名シ其中ニ菖蒲真蔣ニハ花ナシ蔣ノ
類ニテ花アルモノ即花カワミシ花アヤムカキツハタ
花シヤウブ等皆花カワミト云ヘシ昔實方ノ中将
歌枕ミントテ陸奥ニサゾラヒ行キ玉フ時国ノ
民五月五日アヤム草コトヲ知ラサリケレハ
如何ニ此国ニハケフノ菖蒲ハ草ヌソトノ玉フニ
国人申ヌヤウ凡テ奥州ニハ菖蒲州侍ラスト答フ
サラハ安積ノ沼ノ花カワミツ草トノ玉フ

以上長明無名抄等ニ出

古今
ミチノクノ安積ノ沼ノ花カワミカワミル人ニ戀ヤ渡ラン
東路ノ野沢ノカワミ今日ハカリアヤムノ名ヲ借リテケル哉慈鎮

一サルトリノ花 菘菜 サルトリイバラシ 山野ニ多ク生ス
葉ハ柿ニ似テ刺アリ筑紫ノ俗カメイバラト云トソ

一未摘花 紅ノ花シ 紅花ハ未ヨリ咲ケハヤカテ未ヨリ
ツム故ニ名ワク或記ニ未摘花ハ非ニ紅花ニト云リ 古今
及源氏等ノ歌ヲ得心セヌ故ニ惑ニ説出クルシ
古今
人シズ思ヘハクルシ紅ノ未ツム花ノ色ニ出ナン
源氏
ナワカシキ色トモナシ何ニコノ未摘花ヲ袖ニフレケン

ワカシ

三三

一 繡線菊 レモツケ

木ト竹ト二種アリトモニ五月紅花ヲナス
真紅淡紅アリ 真紅ノモノ可愛花ノ形ハニンジンノ
如ク集リ咲ク元ト山生花ヲ愛シテ今庭ニ植ユ

一 蕙 ケイ

順ノ和名抄ニ蕙ハ蘭ノ一名ト云リ 本邦
蕙ト云モノ白及ノ別種ニシテ芬香ナシ花似蘭
元ト山竹今庭園ニ植テ愛シ花ヲ 白花ノモノ有
又稀ニ黄蕙アリトモニ無香 是今本邦竹花
肆ニ専ラ翫フ蕙一説蕙ハジャカウ竹ナラント云リ
此説不合シヤカウ竹ハ羅勒シ蕙ノ形ナシ

一 天蓼 アマヒビ

四五月白花ヲ開ク梅花ニ似タリ好事ノ者葉ヲ

去リ瓶ニイケテ翫フ恰モ如梅花 其梅ト云シ其
實一藤ノ内ニ束束ノユトクナルモノト又扁モノト西
實有依テマタニミシトビト通音勿論シ

一 蚊帳巾

カヤツリ巾ト称ス兒童其莖ヲ列衣ナ
帳ノ形ニナシテ翫トス其形生シ名トス

一 麥飯

夏季トスルモノハ先ハ新麥ノコトシ然レ新
トコトハラストモ夏ト聞ユハ論ニ不及翁判ノ句合ニ
麥飯ヤサラハ滓ノ宿ナラテ 是定家ノ諺
サラハ滓ノ宿ナラテ外トハツレナキ定家蔓ト諷
其語風ヲ取タル句シムクヲ生ヒタル宿ニハアラテ

物志

五

云句意復ト聞ユ翁ノ判ニ季ノ沙汰ハ且テ評
セラレス一句宜シト有リテ勝シ

一 早松草 サニツメケ 鼻月ノ松葉ニラタチシ五月ニ出ルモノ儼秋ノ

一 ツタケニ 形テモ香モ違ハサルモノ有リ又形ハ少モ
違ハスレテ香且ツラナキモノ有リ是別物ナラン
不可喰フトソ

一 黎莧 アサヒユ 此ニ色トモニ夏季ノ柔菜シ 黎ハ春苗アサキ

生レ復盛ニ長ス其葉先キ紅シテ可愛 莧ハ
本仲ニ六種アリ和朝ノ莧ハ四種シ赤白斑及
野莧シ馬齒莧ハ別種シ

一 鼻月躑躅 サツキ 五月ニ咲ソツシ俳諧サツキトハカリ
シテ通ス文字ハ杜鵑花シ花トモツシトモ断ニ不及

一 柿ノ花 小白花シ葉四時不凋 延喜式ニ賢木
日本紀ニ坂樹ト記セリ

一 芙蓉柿ノ花 ヒヨウ 一名金糸桃花ハ桃ニ似テ黄シ梅雨
ノ中ニ開ク葉ハ如柿ノ其花心ニ黄鬚アリテ花外ニ
鋪ク金糸ノコトシ俳諧ニハ柿ノ字シ云ニ及ハス
只金糸桃共ヒヤウノ花トモスヘシ

一 橘 夏季トスルハ花シ一切ノ科類皆實シ季

橘ハカリ其花ノ香ノナツカレキツ賞セリ依テ
夏季し其實ヲ翫フ句ハ論ニ不及秋

一 菽植^シ 菽ハノラマメシ爾雅ニ菽ハ衆豆ノ総
名トミエタレハ字義ハ尤可シ然レトモ俳諧ニ只
世間通俗ノ豆ノ字モ宜シ

一 水鼈^{スイセウ} 水馬虫^{スイバムシ}し其身細長ノ五六分ハカリノ黒虫
し長キ四足アツテ身ハ水ニツカズ水上ヲ馳^ヒコト如馬
依テ水馬ト名付^ツ畿内西エニテ塩賣江東ノ兒
童シラシホト云筑紫ニテアメカメト云 其臭
地黃莫ノ臭し 關東ノ方言ケンホツホウ亭環

此虫ヲ只水馬ト記セリ水上ノ競馬ト混ス水馬虫ノ
三字ヲ用イバセメテモ可シトセン

一 致^チ 團扁^{ヒラ} 黒虫^{クワムシ} 豆^{マメ}ホトアリ 水上ニ浮旋^{ウキマクリ}テ不止
筑紫ニテカイセチカキ江東ノ倍ゴ^ベイリト云按^ヒ
是^コ独^{ドク}樂^{ラク}マ^マワレノ訛言^{ウソコト}し脊^セ純^{ジュン} 黒^{クワ}腹^{ハラ}ハ淡^{タン}赤^{セキ}
關東ニテ水スミシ又サウトメト云是し然ルニ得テ
水スミハ水馬^{スイバ}シト思ヘル輩多シ去^キル^ル復^{マシ}ノ句合ニ
水馬ノ題ニテ 藻^モノ花^{ハナ}ヲ休^ユニ所^{トコロ}ヤ水スミシトシ
タル有^リ是件^{コト}ノ取^リチカヘシ然^シク其句^{コト}高^{タカ}魚^{イサ}トナリ
テ勝^{カチ}チケリ其^ノ魚^ノ者^ノ俳^ハ學^{ガク}ニ疎^スキコト笑^ウ止^ム千^チ万^{マン}
じシカレ俳諧ト云モノ天地万物ノ洲^{シマ}汰^タナレハ見^ミ聞^ク

ノ不届所を可有是等ノ近キコトハ兼テ詮議シ置ヘキコトシカシ

一 黒鴨

外ノ鴨ハ冬来春帰ル此モノ四季ニアル中其味佳シ依テ夏季トモス十月鴨ノ部ニモ黒鴨ヲ出ス句意ニ依テ季ヲ定ムヘシ

一 子ラヒ狩

照射 火串サス 是皆獸狩ニテ夏季トモシハ鹿ヲ射ルニ夜山ノ木蔭ニカリシ燒或ハ小炬ヲ串ニツケテ地ニ投是ヲホグシト云シ 書憲ル鹿火影ニツキテ寄来リ牝牡目ヲ見合ス 火ニ照サレテ鹿ノ目ノキラクトニユルヲ的ニシテ射取

トシ歌ニモ目見合ス鹿トモヨメリ又サ薩男ノ子ラヒトモヨミ増荒男ガ侍トハ知ラテトモワラ子タリ 俱ニ狩人ノコトシ

照射スルハヤメノ末に立鹿ノ鳴ス頃ダニ露ソコホレハ 健男ガ葉山ノ原ノ木カクレニ松ヲトモシノ鹿ニ告ケハヤ

一 蒸比目魚

夏季トスルモノハ若校越前或ハ備前ヨリコレヲ鱧トシテ京大坂ニ出ス其節ヲ季トスルシ冬數多取レハ春多ク来春多ク取レハ初夏 京大坂ニ来リ販 海濱ノ氣変ニヨルシ近來京 師江東ニテ考之 春多ク来ル 夏ハ且テナシ 然レハ是等ノモノ季サタカナラスト知ヘシ

一 津走^{ツハス}

是鯽ノ至テ小ナル時西土ノ方言ツハスシ
關東ニテワカナゴト云フ 秋一尺ハカリナルヲ西土ニテ
大シ口ニ尺ニチカキク 鯽ト呼フ 筑紫ニテヤスト云
東土ニテハイナツト云フ 中冬ノ頃ヨリ長シテ三尺
最大キナルハ四尺 鯽ト名付ク 其肉ヲ曝^{ハカレ}乾^{カガレ}タルヲ
鯽ノ條ト云 阿蘭陀人コレヲ甚ク賞メ 羅加^{ラカン}羊ト
称ス 凡此臭サキヨリ老ニ至テ名ヲ改出世昇
進ノモノナレ故ニ貴賤歳末年始ノ嘉祝ニ用^ユ之
初メ江海ニ在テ 徐^{ソコ}大洋ニ出 東北ノ海ヨリ 西
對列ニ巡リ至ルトソ 對列ヨリ又中華ノ海ニ
入モノ甚ク大キク 甚ク老ス 依テ老臭ノ名アリ
師莫ノ文字ヲ用ユルモ此意ト云ハ

一 水海鯽

ニ魚ニシテ西土ニテ風海鯽ト云セノ
海^{ウミ}鯽ノ小ニノ肉ウスキモノシ 夏秋京師及畿
内ニテ賞^{ウツ}之^シ 細^{ホソ}刻^キニ 和^ワ酒^{サケ}ニ 或ハ水肴トス
是ヲ云ナラン

一 水鯽^{ユリ}

エソノ字信字シ 正字不詳 エソハ七八寸
尺ハカリ有テカニスニ似タリ 胜^{オウサレ} 細骨多ク 佳
品ナラス 是ヲ膾^{ナヒ}トスルニ 細ク切リ水ニ入テヨク
モミ 其^{オウサレ}胜^カキ油^{アブラ}ヲ去テ 和^ワ醋^スニ 佳品トナル
是エソノ料理方シ 是ヲ云ルニヤ

六月

一忌日ノ御飯

朔日

是月次神奈食ノ御神事ヲ

今日令始玉フシ忌日トハ火ヲ殊ニ新タニスル日ト云

義シ内膳司ヨリ奉ルヲ大床子ノ御座ニテ供之ヲ

景行天皇ノ御時ヨリ始ルト云ニ

一氷室ノ貢

山城国氷室山名所シ大和モ同名有リ謠ハ

丹波国栗田郡氷室山ト作レリ六月朔日献氷ヲト

年中行事ニ載タリ

一六月會

四日

傳教大師ノ御忌シ山門ニ勅便アリ

一 神今食 十日 是伊勢太神宮ヲ内裏ニ勸請有テ
天子自ラ神饌ヲ令供玉フ御神事シ打祓ノ
箱 逆枕 八重疊タミナト云御規式アリ

一 解ゲ粥サイノ御粥 十二日 神今食ノ翌日天子エ献ル御粥シ

一 祇園會 七日 祭禮四條通寺町ニ御旅所有テ

七日ニ神輿ヲ出ス則御祭禮シ然ノ十四日ニテ
御旅居シ七日十四日ノ御祭トモニ生土ノ町ニ作ツク
鉾山ラ挽ツ之ラ 其番數ハ書ニ出タレハ畧ス之ラ 其假
山ノ幕飾リ及人形等 古代ノ奇物ニ尤重貴ノ物也
此祭禮圓融院ノ天祿元年ニ始ル 中古恒例トシテ

高倉ノ四條通東北ニ向テ將軍家ノ構ニ御棧鋪ツ
雜職其前ニ伺公ココレレ警言固ス甚ク嚴重ナリ
十八日ツ神輿ミ洗ノ御神事ト云六日ノ夜ヨリ此夜ニ
至上ミハ三條ツ限リ下五條ニテ每夜河原ノ納涼
都下ノ貴賤ハ云ニ不及畿内遠國ノ遊客成群
數千ノ茶店河上ニ泛メ沫テラ會ミ宴ス花洛年中
第一壯觀シ祇園ノ神社所祭ノ神素盞鳥ノ尊
稻田姫三女五男素盞鳥ノ御子ナリ 往昔聖武天皇天平五
年余吉備公ニ播州廣峯ノ社ニ令祭之ラ 後貞觀
十一年ニ今ノ洛東八坂ノ郷ニ奉遷ト云ニ神紋ニ瓜ノ
紋ツ付リ俗胡瓜キウシト称シテ祇園氏子ハ胡瓜ラ不
食甚タ誤タシトソ瓜ノ紋ハ木瓜ホケノ花ノ形チニシテ織田

家ノ紋じ織田信長公當社再興アツテ神輿及
神器悉家紋ヲ付スルト云ニ神紋ニアラストソ

一 祇園臨時ノ祭 十音 御禊カサ 宣命殿上ノ五位東遊ヲ

奉ル天治元年ヨリ始ルトソ天延三年東遊ノ歌ニ
神ノ代ノ八坂ノ里ト今日ヨリソ君カ千年ヲカソハ始ル

一 相国寺ノ懺法 十七日 大門ノ閣上ニテ行ル松風ト云

鉢ヲ打ツ此寺ノ珍寶じ禪五山ノ一區足利
義滿公ノ寺じ上立賣烏丸通ニアリ

一 座頭ノ涼 十九日 是座頭ノ行ヒ遊樂ニアラス

涼ミ積塔トテ二月十六日ト今日執行ス之ヲ是又雨
夜ノ親王ノ母公追福ノ遺風じトソ

一 鷹羽ツカヒヲ習フ 六月ノ節じ 廣州化堂ト成ル 六月甲

禮記月令ニ出

一 御手洗ミタラシ詣ミウケテ 十九日ヨリ 下加茂ノ社ニ貴賤群詣ス 紉タス

ノ涼ト云則是じナゴレノ被アリ 和ナ讎ゴレ 甚ナ越ゴレ
而義じ神祇ノ部ニ委記

一 鞆馬ノ竹切 廿日 古記曰昔此山間ニ有大蛇一諸民
驚怖シ且ツ為ニ之ガ隕レ命ヲ者多シ時ニ峯延法師

ト云修驗ノ僧鞍馬寺在住し於是峯延誦多
門天ノ咒ヲ伏^ス之ヲ大蛇忽自ラ所^キ斬死ス藤原
伊勢人末テ裁^ニ判^レ之ヲ蛇骸ヲ靜原山ニ捨シム
人數五十人ヲ以テ運^レ之ヲト云ミ其所ヲ今ニ至テ
大蟲ノ嶽ト号ス竹切ハ其大蛇ノ斬^キレタルヲ標セル
行^ヒし鞍馬寺則中太夫藤原ノ伊勢人ノ建立シトソ

一天滿ノ御被^ニ 廿五日 大坂天滿天神ノ祭禮し當社
村上天皇ノ天曆年中奉^{ウケテ}詔^シヲ菅神ヲ勸請スト
云ミ每六月廿五日戎嶋ノ御旅所エ神輿ヲ出ス
其行還川船し數万ノ挑灯群集ノ遊船亦比
類ナキ壯觀し昼ノ内地車囃^{ハヤシ}物假山狂言種ミ

アリ此祭禮ヲ車樂ト稱ス世倍戲舞ニダシジリ
ミイト囃^{ハヤシ}コトアリ此祭禮ヨリ出タルナラン

一節折^{ヨリ} 廿日夜 天子ノ御長ケノ尺寸ヲ竹ニテ取主殿
寮ノ宮主神^ニ被^ス之ヲ女官節折ノ傘婦御長ヲ
取^レ役し皆録ヲ給フ十二月ト西度以上公事根
源ニ出ツ活法ノ書ニ廿日ト記セルモノ誤シ

一菅貫^{スカスキ} 茅ノ輪^チ 形代^{カタシロ} 皆被^レノ具ニシテ菅貫ト茅^チ
輪ハ二名一物し菅^{スチ}及茅^チニテ輪ヲ作りコレヲ
越ヘク^リテ後河エ捨レハ邪氣災難ヲハライ志
形代ト云ハ茅^チ又麻ニテ人形ヲ作り以之ヲ搃

身ヲ撫テ河エ捨ラズ云し依テ撫物トモ云又麻
葉ヲ幣ニ用イテ輪ヲクルニ手ニモ持ツ故ニ麻
ヲハラエ州ト名ツク

新千載
年ナミノ半ヲ令宵越ル輪ニ管貫カケテセシハ經ヌ
後拾遺
思フコトミナツキ子トテ麻ノ葉ヲキリニ切テモ後ツル哉

一 サラシ井 六月ニ井ヲ浚タルヲ云し又新井トモ云
晒シ井ノ木ノ下蔭ニ行ミレハ衣手寒シ蟬ハナケトモ

一 麻地酒 肥後ノ名物し其製スル時節ヲ季トスルカ

一 奈良漬 是其漬ケルヲ云向ハ夏只名目ハカリハ無季し

一 名乗菜 濱藻し衣通姫ノ歌ヨリ名乗菜藻

ト日本紀ニニユ是ホダハラし名乗菜ト云時ハ
夏ホダハラト云ハ正月ノ飾物ヲ春勿論し衣通姫
トコレニ君モアエヤモイサナトリ海ノ濱藻ノヨル時クヨ
又此藻ヲ神馬藻ト書ルハ不可騎ノ字義しトソ

一 鷺草 二種アリ水中ニ生ノ葉石菖ノ如クサ短ク

嫩ニ葉ノ中ニ莖ヲ抽テ莖頭ニ白花ヲ開クサナカラ
小白鷺ノ如シ又一種ハ苗葉一面ニ地ニ付テ小白花ヲ
開是又白鷺ニ似テ右ノ花ヨリモ小シ地ニ付テ能ク
ハヒコルヲ以テ好事ノ者芝ニカヘテ植之ヲ依テ是ヲ
鷺苔トモ云芝ヨリモ澳

一 虎ノ尾 夏白花ヲ開キテ作穂ヲ 獸ノ尾ニ似タリ紅
白相交ルモノアリ又秋緑花ヲ開キテ葉厚キモノ
アリ又忍竹ノ類ニテ無花ノモノ有皆虎ノ尾ト称ス

一 風蘭 不用土ヲ木ノ枝等ノ日蔭ニ釣リシキテ能生立
風ヲ好テ茂盛ス依テ名トストソ花葉蘭ニ似小
五六月開花ヲ微香有蘭ノ香ノウスキモノシ

一 釣鐘州 花紫色下ニ垂テ鐘ヲツルニ似タリ又
白花淡紫ノモノアリ葉ハ如牡丹ノ

一 玉簪 キボウリン 五六月 薑ヲ抽テ白花ヲ開ク大小アリ

大玉簪ハ葉甚タ大シ二種トモニ葉ノ形チ宝珠ニ
似タレハ倍擬宝珠ト称ス

一 麒麟州 キリンサダ 和名抄州史等ニ不載今州花肆ニアル
モノ葉ハ蒲公ニ似テ長ク本マテ割ニアリ夏
淡紅ノ花穂シナス又虎ノ尾州ノ形ニ無花ノモノアリ

一 射干 ヤカン 是檜扇シ又鳥扇トモ云花黄シ帯
赤レ葉ハ鳥ノ翅ニ似タリ

一 赤竹 地錦アカ竹ト訓ス田野及寺院ノ階砌
ノ間ニ地ニ付テ生ヌ小竹シ六月小赤花ヲ開ク莖

モ赤シ葉ハスヘリ寛ニ似テ青紫シ帯フツクニ
コレヲ水竹ト記セルハ誤ナルヘシ

一葛ノ花 本竹其外竹史ニ七八月ト記セリ然ルニ

本邦山間ニアルモノ皆夏花アリ 漢和土地ノ

異ナラン 治法ノ書八月ニモ葛ノ花ヲ出サリ松ノ

葛ツ秋ニ用ルハ葉ノウヘシ 新古今ニ

神ナミノ三室ノ山ノ葛カツラ裏吹カヘス秋ハ来ニケリ

古歌ルテ秋風ニ葛ノ葉ノ裏ト讀リ然ルツ 芭蕉翁

葛ノ葉ノシモテミセケリ今朝ノ霜

一毛虫 是春シ治法ノ書 夏季トスモ夏盛ニアル

モノナレトモ其初メツ季ニ用ルカ論シ

夏ブシ 鯉節シ 六月 カツラ松魚ヲ製メ節ニ作ルシ

一水葵 本名著 イサ又鳧葵トモ 水鏡トモ云葉ハ イサ葺

似テ夏黄花ヲ開ク又白花ノモノ有水中ニ生
立テ潔 イサ人家近キ池ニハ生セス依テ見知レル人

稀シコナギツ水葵トシホエタル葺マ、アリ コナギ浮藻

ハ秋シ碧花シ不可混ス

篋 鱸輪 上終



